週刊 YEAR BOOK

1913
大正2年

日録20世紀

8|11
平成10年8月11日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第30号 通巻73号
¥560
講談社

野口英世の栄光と錯誤

“大正政変”桂内閣崩壊までの55日
小林一三、「宝塚少女歌劇」をスタート！
「T型フォード」コンベア組み立て稼動！

ついに梅毒と中枢神経系疾患の関係を解明！「細菌の時代」と「ウイルスの時代」の谷間で〝ノーベル賞候補〟野口英世の栄光と錯誤

▲恩師・小林栄氏宅の土蔵で発見された、初のカラー撮影写真。野口英世がガラス原板をアメリカから送ったもの。

◀明治三五年、会津若松市の会陽医院で左手の手術を受けた野口（右）は、翌年そこの薬局生となる。

野口英世記念会提供（四点とも）

▲◀母・シカが、息子の成功を祝し、帰国をうながした手紙。「ドかはやく。きてくだされ」と訴えている。

◎表紙　野口英世は、大正2年、梅毒スピロヘータを人間の体内で検出。ヨーロッパに招かれ、各地で講演を行った。　野口英世記念会提供

〝海外頭脳流出〟の先駆け、野口英世は、大正二年、梅毒スピロヘータを人間の脳内で発見し、世界中の注目を集めた。一九世紀後半以降繰り広げられた、「細菌発見競争」の終末期を飾る偉大な業績だった。だが、「細菌の時代」と「ウイルスの時代」の谷間で、野口は細菌学の方法に固執し、黄熱病でみずからの生命を奪われてしまうのである。

世界的な評価を得た野口英世の研究成果

大正二年夏のある早朝、ニューヨークのアパートで就寝中の画家・堀市郎は、激しいノックの音でたたき起こされた。ドアの外には、隣室に住む野口英世（三六）が、シャツ一枚の姿で立っていた。妻・メリー（三七）もたたき起こして朗報を告げたばかりの野口は、堀にも激した声で「いた、いた」と繰り返した。

野口は、梅毒の病原体・スピロヘータを、ついに人間の脳の中で発見したのである。脳の梅毒患部から採集した病的材料を、ウサギの睾丸の中で培養し、増殖したものをウマ、ヒツジの血清に移し、再びウサギに戻し……という気の遠くなるような作業を積み重ねたすえの発見だった。ついで野口は、近くに住むロックフェラー医学研究所（以下「ロ研」）所長のS・フレクスナー（四八）邸に向かった。眠そうな様子で起き出してきたフレクスナー博士も、話を聞き顕微鏡で確認、興奮した声で「大成功だ」と祝福した。

当時、中枢神経系の代表的な疾患である進行性麻痺と脊髄癆（脊髄が梅毒に冒され、知覚や歩行に障害を起こす）は梅毒の末期症状とされていたが、その確証はなかった。野口はまず、精神病患者の約二割を占める進行性麻痺の原因が、梅毒にあることを証明して見せたのである。そして、続けて今度は脊髄からもスピロヘータを発見、脊髄癆が梅毒スピロヘータに起因することを実証した。

当時の野口は、ロ研の准正員だった。ロ研はロックフェラー財閥の出資で明治

▲1913年の業績により、翌年、野口は最年少の38歳でロックフェラー医学研究所の正員（所長以下7人）に昇格。　「イリュストラシオン」

◀ニューヨークのロックフェラー医学研究所。1901年に発足し、年間2万ドルの予算で運営された。　野口英世記念会提供

三四年に設立され、世界のトップクラスの頭脳を集めていた。その正員は、身分が終身保障される。赤貧の家庭に生まれ、しかも幼時期の不慮の事故で左手にハンディを負っていた野口は、明治三三年、新天地を求め渡米した。そして、寝食を忘れて研究に没頭。研究仲間は「日本人は二日に一度しか寝ないのか」と真顔で噂しあったという。そして、明治四二年、三二歳の若さで、毎年契約を更改する不安定な立場から、正員に準じ五年間の身分を保障される准正員となったのである（大正三年七月には正員）。

勢いに乗る野口は、続いて小児麻痺や狂犬病の病原体も「発見」する。

「大正初期の野口の時代には、コッホの結核菌発見（明治一七年）に始まる病原体発見競争は、一段落していました。残っていたのは発見がむずかしいものばかり。野口の業績のうち、梅毒スピロヘータと中枢神経系疾患の関係の解明は本物でしたが、小児麻痺と狂犬病、そして後の黄熱病の病原体発見は誤りでした。それらはいずれも、光学顕微鏡では見えないウイルスが病原体だったからです」

と言うのは、科学史を専門とする中山茂・神奈川大学教授である。

とはいえ、当時の世界の細菌学者（「細菌ハンター」と呼ばれた）は野口の発見に脱帽し、臍をかんだのである。

そうした三つの「成果」をたずさえて、この年九月、野口は渡欧する。ドイツ自然科学・医学者会議から招待講演を依頼されたためである。これは、世界最高峰のお墨付きを得たのと同義だった。医学の本場のドイツで、野口は胸を張って研究成果を披露し、各地で大歓迎を受ける。

▲ロックフェラー医学研究所で、助手たちとともに。

◀一九一二年四月、メリー・ダージスと結婚。

▶研究所所長のS・フレクスナー博士と。

▲大正4年9月14日、福島県喜多方での講演会を終えた野口英世。帰国した野口は勲四等に叙せられ、故郷で熱烈な歓迎を受ける。 野口英世記念会提供（5点とも）

学士院恩賜賞を受賞し一五年ぶりの凱旋帰国

その頃、欧米の新聞は、野口をノーベル賞の有力候補と書き立てた。野口自身もそれを自覚していた。幼少期の野口の才能を発掘した恩師・小林栄（五三）に対し、「一両年のうちにノーベル賞」を受賞するだろう、と書き送っている。たしかに野口は、大正三年、四年、九年のノーベル医学賞の最終候補となったが、結局、受賞は逸している。

そうした動きにあわてたのは、日本学士院である。学士院賞よりも先にノーベル賞を与えられては面目丸つぶれとばかりに、大正四年四月、学士院恩賜賞を野口に授与した。これを機に、野口は一五年ぶりの帰国をはたす。九月五日の「東京日日新聞」は「天才野口英世君、米国から本日横浜着」と大々的に報じた。野口は大隈重信首相を表敬訪問し、東京帝大医科大学の青山胤通学長は逆に表敬に現れ、かつての上司の北里柴三郎（当時・六二歳）は歓迎の宴をセットした。故郷の会津若松にも錦を飾り、母のシカ（当時・六二歳）とも再会した。野口にとって生涯で最も華やかな日々であった。

アメリカに戻った野口は、大正七年、黄熱病の研究のためエクアドルに遠征する。黄熱病は、西半球で猛威を振るい、肝臓を冒す悪病としておそれられていた。野口は現地に乗りこんで一〇日もたたないうちに病原体を「発見」する。またも野口にしてやられた、と歯ぎしりするものも少なくなかった。だがその「発見」は野口の誤りだったのである。しかし多くの人は野口を信じ、野口の発見した病原体からワクチンを大量に製造した。

その後、野口の「発見」やワクチンの有効性を疑問視する声が時とともに強くなってくる。野口の「発見」した病原体は、症状の酷似した別の病気のものではないか、という見方が日増しに優勢になってゆく。それでも野口は自説を曲げなかった。それが結局は、野口自身の生命を奪う結果となるのである。

昭和三年、アフリカで発生した黄熱病研究に黄金海岸のアクラ（現・ガーナ）へ派遣された野口は、免疫を持っていると疑わなかった黄熱病に冒され、五一年半の生涯を閉じた。

「野口の登場は細菌発見競争には遅すぎ、二〇世紀のウイルスハントの時代には早すぎた。今から見れば、野口は細菌学の方法でウイルスを追いかけていたと言える。そのために勇み足を犯し、さらには自分の命まで研究に捧げてしまったのです」（前出・中山教授）

「どうも僕にはわからない」

野口英世が、末期の地となったアフリカ西海岸のアクラに到着したのは、昭和2年11月のことだった。西アフリカで発生した黄熱病研究のためである。着任した野口は、ただちに精力的に研究を開始した。その翌年の元旦、彼は軽い黄熱病にかかるがすぐに回復する。これで終生の免疫を得た、と野口は思った。その後研究は順調に進んでいるかに見えた。ところが昭和3年5月12日、野口は悪寒を訴え、床に伏してしまう。頭痛、体の痛み、そして吐瀉、尿蛋白の増加。黄熱病の症状であった。翌5月13日、見舞客に「どうも僕にはわからない」とつぶやいたのが、野口の最期の言葉となった。すでに免疫ができているはずなのに、なぜ2度も、という疑問だった。

世界のジャーナリズムがアクラに注目する中、5月21日の正午、野口は死去する。世界の新聞は「科学の殉教者」「平和の英雄」などの見出しをつけ、遅れてきた細菌ハンターの死をいたんだのである。

◀終焉の地、アクラの研究所で実験を重ねる野口英世。

〝良家の子女だけで、唱歌隊を作れないか〟
創設者・小林一三の意表をつくアイディア
「宝塚少女歌劇」一六人で発足！

大正二年、阪急電鉄の創設者・小林一三は、「良家の子女」を集め、日本初の少女だけによる歌劇団を結成した。翌大正三年、宝塚新温泉のプールを改造したパラダイス劇場で、彼女たちは初舞台を踏む。その人気は次第に高まり、大正一三年には専用の大劇場を持つことになる。宝塚歌劇団の華麗なスタートであった。

小林一三が陣頭指揮 素人娘の特訓始まる

大正二年春、阪急電鉄（当時・箕面有馬電気軌道）創設者の小林一三（四〇）は頭を抱えていた。自信があった「宝塚新温泉」の室内プール事業が、思いのほかの不振だったからだ。当局による男女共泳の禁止の通達に加え、保温技術が未熟で水温が低かったことなどが客足を遠ざけていた。対策に苦慮していた時、頭をよぎったのが、当時、大阪の三越呉服店で人気を博していた「少年音楽隊」だった。これに対抗して少女だけの唱歌隊を作れないか。それから、小林の頭はめまぐるしく回転し始めた。

「少女は良家の娘の中から選ぼう。伴奏は洋楽で、できれば管弦楽にしたい。指導者は、音楽学校出身の専門家に依頼して……」

こうして、コンセプトが次第に固まっていく。「良家の娘」と言っても、上流階級の娘という意味ではない。当時の芸人はほとんど「玄人」だった。それに対して小林は、「普通の家庭出身の素人娘」だけで「宝塚唱歌隊」を構成しようと考えたのだ。

「小林さんも最初は試行錯誤されたようで、少女たちに唱歌を歌わせるよりもオペラへと方針が変わっていったようです」

宝塚歌劇団に四〇年間在籍し、『宝塚歌劇八十年史』などを編集した橋本雅夫氏は言う。

そして第一期生として、大正二年七月、一五歳以下の少女一六人が選ばれた。

その一人で、後に男役スターとなる高峰妙子（当時・一三歳）は、こう振り返る。「『月給をくれて芸を仕こんでくれる婦人唱歌隊というのができる』と人がすすめてくれました。『そんな馬鹿な』と思ったけれどまあ受けてみよう。入ってからも日給二五銭も貰うので、母などが心配して、生肝をとって六神丸（動物生薬を主原料とする漢方薬の丸剤）を作るのとちがうか、なんて言ったほどでした。当時お米一升十二、三銭くらいでした」（「歌劇」昭和二十六年八月号）。

その後、名称も「宝塚少女歌劇養成会」と改められ、声楽、ピアノ、バイオリン、舞台マナーなど、少女たちの特訓が開始された。

彼女たちの初舞台は、翌大正三年の四月一日。兵庫県宝塚新温泉の室内プールを改造したパラダイス劇場は、脱衣場を舞台に、水槽を客席に仕立てた、お世辞にも立派とは言えないホールだった。

演目は、桃太郎をアレンジした「ドンブラコ」、喜歌劇「浮れ達磨」、ダンス「胡蝶」の三作。この日から開かれた「婚礼博覧会」のアトラクションとして上演されたため、入場料は無料だった。

「宣伝はほとんどなしでしたから、新聞社後援の『婚礼博覧会』めあてで訪れ、たまたま見たという観客が多かったでしょう。しかし少女たちだけの舞台などどこにもなかったので、公演の評判はよかったようです」（前出・橋本氏）

▲第1回公演の歌劇「ドンブラコ」。すでに楽譜も出版され、東京で試演されたこともある「桃太郎」のオペラ化作品。 宝塚歌劇団提供（6点とも）

▲本居長世作の喜歌劇「浮れ達磨」。

◀「胡蝶」。三匹の蝶と女神を中心にした音楽ダンス劇。

▼ウエイトレスが主役の歌劇「音楽カフェー」。

▼安藤弘作の童話劇「浦島太郎」。紗幕を使用した竜宮城のシーンの豪華さが、評判を呼んだ。

◀大正三年一〇～一一月にかけて上演された、小林一三の処女作「紅葉狩」。

宝塚市立図書館提供

▲明治44年にオープンした「宝塚新温泉」正面玄関。大浴場、室内プールなど最新設備を誇る娯楽場だった。

◀大正7年頃の少女歌劇団生徒、右から小川夏子、宇治朝子、沖野石子。背景の建物は宝塚パラダイス。　宝塚歌劇団提供

初のレビュー「モン・パリ」が現在の宝塚歌劇の原型に

宝塚少女歌劇は、発足当初は赤字続きで、廃止論すら唱えられた。しかし、客足は徐々に延びていく。デビューした大正三年の一日平均観客数は、一一三一人だったが、高峰妙子、小夜福子らのスターが生まれ、五年後の大正八年には二一二六人とほぼ倍増する人気で、初の東京公演も実現する。さらに、念願だった宝塚音楽歌劇学校が設立されている。

そして大正一三年には、四〇〇〇人収容という、当時世界でもトップクラスの宝塚大劇場を作るまでになっていった。「大衆的な安い料金」実現のためには、一度に多人数を収容できる劇場がなければならない、という小林の持論が実現したのである。

同じ年、ライバルの阪神電鉄が、甲子園球場をオープン。宝塚も甲子園も、電鉄会社の客寄せの手段でもあった。

昭和二年、最初のレビュー「モン・パリ」が大ヒット、宝塚人気は決定的なものとなる。小林の命により欧米のショービジネス事情を観察して帰朝した岸田辰弥の案によるもので、振り付けは弟子の白井鐵造。幕なしの一六場、スピーディーな場面転換にダイナミックなラインダンス、そしてジャズ、シャンソンが流れ、絢爛豪華な背景という現在の宝塚歌劇の原型が出そろったのである。そして、この頃から使われ始めた「タカラジェンヌ」という言葉は、少女たちの憧れのまととなった。

昭和九年には、三〇〇〇人規模の東京宝塚劇場が完成し、一三年には初のヨーロッパ公演が行われる。

宝塚はなぜ「女の園」なのか。

「男のよさを一番知っているのは女。その女が工夫して演ずる男役は、女が見たら実物以上のほれぼれする男になる。歌舞伎の女形が、本当の女以上の色気を持つのと同じだ」

小林は、後にこう述懐している。

だが、その「女の園」にも「男子生徒」が登場したことがある。大正八年に八人の「男子選科生」が入学したが、「虎や狼と共演させるな」という厳しい非難を受け「排除」されたのをはじめとして、何度か検討はされたが、いずれも実現しなかった。

「宝塚歌劇団は、観客に夢を売るスペシャリスト集団。創設者の小林一三は時代の感性の変化に敏感な実業家で、彼にとっては鉄道や百貨店、電力も、人々の感性の変化と深くかかわるものでした。宝塚歌劇は、それをさぐるアンテナでもあったのです」（文芸評論家・川崎賢子氏）

発足から、まもなく九〇年を迎える宝塚歌劇団の登竜門、宝塚音楽学校の人気はあいかわらず高く、その入試は今も[illegible]四倍という競争率を保っている。

▲明治40年、阪急鉄道監査役だった小林一三は、阪急東宝グループの創設を一身に担うことになる。　池田文庫提供

女たちの肖像

初めて女性に門戸を開いた東北帝大の理学部に入学！黒田チカの〝大英断〟と業績

稲葉真弓

▲黒田チカは、大学を定年退職した後も、理研で研究を続けた。

この年の八月、東北帝国大学理学部が、初めて女子に門戸を開放、女性三人が入学を許された。化学科に入学した黒田チカ（二九）と牧田ラク（二五）、数学科に入った丹下ウメ（四〇）の三人である。

このうち黒田チカは、日本の化学界に大きな功績を残した女性化学者の先駆者として知られるが、当時の社会の反応はどちらかというと冷ややか。新聞も〝大英断〟ともちあげつつ、とまどいまじりの文脈で〝三女史入学〟の報を伝えている。面白いのは識者たちの談話で、「痛快ではあるが、日本女性は家庭の人となるべき。大学入学は必要なし」と話すもの、「独身を通すなら大学もよし」と揶揄するものなど、賛否両論の波紋を投げかけたが、これを皮切りに女子に門戸を開く大学が続出した。

黒田チカが学問に目覚めたのは、小学校の頃だった。明治一七年、佐賀県の旧鍋島藩士、黒田平八・とくの三女として生まれた彼女は、大柄のため満五歳で小学校に入学、心細さから四つ上の姉の教室に入りびたっているうち、勉強好きの少女になった。

佐賀師範学校を卒業後、小学校教員の職についたが、向学心やみがたく一年で退職、上京して東京女子師範学校理科に入学した。理科を選んだのは、「文科は本を読めば勉強できる。理科は実際に実験してみなければならない」という理由からだったという。卒業後も研究生として母校に残っていた彼女が、「東北大学理学部、女子に門戸を開放」の報に接し馳せ参じたのも、化学の可能性をきわめるためだった。

入学後は、真島利行教授のもとで天然色素の紫根の研究に没頭、大正五年、卒業と同時に日本初の女性理学士となった。

一〇年から一二年まで文部省在外研究員として英・オックスフォード大学に留学、帰国後は理化学研究所で色素分析の研究を続けたが、この頃の彼女の服装はいつも黒ずくめ。手は洗っても洗っても落ちない色素に染まり、研究室のフラスコやビーカーには、さまざまな植物から抽出された液や結晶がこびりついていたという。

昭和四年、紫根、紅花など日本産植物の色素についての研究論文により、日本で二番目の女性理学博士（一番目は保井コノ）となり、一一年には日本化学会第一回真島賞を受賞。二七年、お茶の水女子大学の名誉教授となった。晩年はタマネギの皮から高血圧の薬、ケルチンCを発見、昭和四三年、八四歳で死去。最後まで独身だった。

勝者・敗者

アジアで腕を磨いて世界へ 第一回東洋五輪に参加した日本チームの〝実力と面目〟

阿部珠樹

前の年、明治四五年、初めてオリンピックに参加したことは、日本のスポーツ界に大きな刺激を与えた。国内で敵なしの選手が、予選も通過できず、あるいは途中棄権するなど、惨憺たる成績で、あらためてスポーツ先進国との差を痛感させられたのだ。いきなり世界をめざしても、無理がある。どこから強化しなければならないか。スポーツ関係者が目を向けたのはアジアだった。まず、アジアで腕を磨き、盟主となる。そして世界に打って出るのだ。

そうした気運の高まりに、まさにうってつけだったのがこの年の二月、マニラで開かれた第一回東洋オリンピック大会だった。アジア競技大会の前身とも言えるこの大会に参加したのは、日本、フィリピン、中国の三ヵ国だけ。本家のオリンピックに比べれば、気の毒なほどこぢんまりした大会だったが、それでも、東洋での覇権をめざす参加者たちの意気ごみは強かった。

日本が選手を送ったのは、野球と五哩短縮マラソン、一哩競走の三つ。野球は明治大学の単独チーム。陸上は田舎片善次、井上輝二の二選手が代表である。

まず最初に登場したのは明大野球部。緒戦でフィリピン代表チームを六対零で破ると、続く中国代表チームにも六対二で快勝、あっさり「東洋選手権」を獲得する。明大チームはエキジビションでも、アメリカの陸軍や実業団チーム相手に互分の成績を残し、力を見せる。

一方、陸上の方は田舎片が一種目に優勝。井上も短縮マラソンで二位に入り、オリンピック参加国の面目を保った。しかし、田舎片の一哩の記録五分五秒一は、当時の世界記録に比べて一分も遅いものだった。

東洋オリンピックは、大正四年の第二回上海大会から「極東選手権競技大会」と、より実態に則した名称に変更される。そして隔年で一〇回まで開かれ、大正期の日本スポーツの発展に大きな役割をはたしていった。

▲1月15日、マニラに向かって出発する明治大学野球部一行。

▲関釜航路に大型貨客船「高麗丸」就航（1月29日）下関と朝鮮の釜山間に、年々ふえる客と貨物に対応するため、大型新鋭船が投入された。2等寝室も3等同様畳敷きとし、定員を611人に増員。写真は釜山桟橋。

◀北米の日本人移民、一時帰国（1月28日）ワシントン州タコマに在住の、125人が横浜入港。「富嶽の威容を仰ぎー睡もせざり」と新聞は伝えた。一行は観光のかたわら、母国「細民」の窮状を見かね、30円を寄贈。写真は翌日、東京・下谷万年小学校で。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

◀東京・目黒競馬場で火災（1月26日）午前2時頃、東京競馬倶楽部厩舎から出火。厩舎5棟のうち3棟が全焼、競走馬22頭を失った。春季競馬出場を前に鹿児島・宮崎・岩手などから入厩していたもので、1頭平均450円の損失。放火も噂されたが、原因は不明だった。

「嗜好」

▲キリンビール初荷（1月2日）横浜・山手工場を出発した車馬の行列が、横浜駅前を練った。この頃ビールは定着し、キリンのシェアは2割に達した。岩崎家が大株主、明治屋が販売した。

◀桂太郎、多数党建設を計画（1月20日）前年、第3次内閣を樹立したが、強力な憲政擁護運動に立ち往生、新党結成で事態打開をはかった。2月に立憲同志会を結成したが、与党・政友会の切り崩しに失敗、総辞職した。

「写真五十年史」

「写真タイムス」

◀生駒山トンネルが崩壊（1月26日）大阪・上六と奈良・三条町を結ぶ鉄道の仕上げとして、大阪軌道株式会社が工事を急いでいた。この日、突然、岩盤が崩壊、153人が生き埋めとなり4日後やっと救出、11人が死亡した。

大正2年1月

1（水）●中央気象台、柿岡地磁気観測所で観測開始。
2（木）●東京・魚河岸の初売り、品不足で三割高。
3（金）●トーマス・エジソンがトーキー映画を公開。
4（土）●大杉栄、荒畑寒村ら第一回近代思想社小集会。
5（日）●東京で全国かるた競技大会。二〇〇人参加。
6（月）●対馬海峡の海底通信線四本のうち二本切断し不通、三七〇〇通の電信が遅延などで混乱。
7（火）●横浜で米国渡航者に十二指腸虫の検診開始。
8（水）●鉄道院、長野県の東信軽便鉄道に敷設許可。
9（木）●死刑宣告受刑者は全国で七〇人、と新聞に。
10（金）●チベット、モンゴルと条約締結し、独立宣言。
●中国の第一回国会議員選挙。孫文、宋教仁らの国民党（中国革命同盟会を改組）が圧勝。
11（土）●ニューヨークで自動車ショー、八〇社七〇〇台を展示。セダン型が初登場。
12（日）●東京で憲政擁護連合大会、桂内閣打倒を宣言。
13（月）●夕張炭坑で火災。消火のため坑夫五三人の生死不明のまま坑口を密閉（全員死亡）。
14（火）●内国家禽共進会に各種鶏四三四点出品される。
15（水）●内地米暴騰で外米消費が二割増加、と新聞に。
16（木）●英下院、アイルランド自治法案を可決（30日、上院は否決。アイルランド全土が不穏状態）。
17（金）●ポアンカレが仏大統領に就任。
18（土）●沖縄・中頭郡役所職員、知事・郡長の更迭を叫び県庁に放火（6月1日、日比知事解任）。
19（日）●政友会と国民党が大会、桂内閣打倒を決議。
20（月）●桂首相、政局打開に新党「立憲同志会」結成を発表（21日、一五日間の議会停会を宣言）。
21（火）●東京帝大の仏人講師・コットが仏語の私塾を開く（後の「アテネ・フランセ」）。
22（水）●天候平穏・作付け増加で麦が大豊作と農商省。
23（木）●青年トルコ党急進派のエンベル・パシャらがクーデター。バルカン同盟との条約破棄通告。
24（金）●東京・新富座で憲政擁護第二回連合大会開催。
25（土）●陸軍省、民間自動車開発に補助金支出を決定。
26（日）●奈良県の生駒トンネル大崩壊。一五三人が生き埋めとなり、一一人が即死。
27（月）●大阪市長・植村俊平辞任し肝付兼行が就任。
28（火）●文部省、学校の兵式体操を教練と改称。
29（水）●宮内省、宮廷自動車規定改正。外国発注の十余台の車両が到着したため、運用法など決定。
30（木）●逓信省、予算緊縮のため明治四〇年度申し込み分以降の電話架設工事延期を決定。
31（金）●大阪商船、神戸―ボンベイ線を開設。

ニュース・ファイル 1913

フォト＋日録で再現する365日

前年からの閥族打破・憲政擁護の運動は、民衆の蜂起をうながし、ついに桂内閣は倒れた。大正政変である。中国・袁政権は第二革命におびやかされたが独裁体制を固め、欧州では、「世界の火薬庫」バルカンに再び火がつき、列強を巻きこんで第一次大戦への道を歩み始めた。

◀大倉喜八郎の「寿像」が完成（10月23日）喜寿の祝いに、友人らが東京・赤坂葵町の自邸内に建設、除幕式を行った。武石弘三郎作。喜八郎は軍御用商人として巨利を得、「死の商人」と噂された大倉財閥の創設者。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲「新しい女」の講演会(2月15日)平塚らいてう(27)らの青鞜社が、東京・神田青年会館で開催。写真は岩野泡鳴夫人の清子(24)。「婦人の独立は経済上の自立から」と説いた。聴衆は女学生が多かった。

▲宋教仁襲撃される(3月20日)深夜、上海駅で狙撃され重体、22日死去した。31歳。宋は国民党総裁の孫文を抜く実質的な指導者で、軍事力を握る政敵・袁世凱をおそれさせていた。

▼東京・神田で大火(2月20日)午前3時近く、救世軍の殖民館から出火、たちまち四方に広がり、三崎町から一ツ橋、錦町まで2100戸が焼失。錦華小、大成中、天主公教会、東京堂、富山房、有斐閣などが灰となった。

毎日新聞社

「写真タイムス」

◀東西角力協会が手打ち式(2月19日)大木戸を勝手に横綱にしたため、吉田司家から破門されていた大阪大角力協会が許され、東京・両国の料亭で祝宴が持たれた。写真右端が吉田追風、中央は東京大角力協会代表の横綱常陸山。

▶グランド・セントラル駅完成(2月2日)米国・マンハッタンの中心、パーク街に3年の歳月をかけて建設。巨大な駅ホールが呼びもの。大陸横断鉄道の発着駅として、ニューヨークとシカゴ、デトロイトなどの大都市を結んだ。

◀孫文来日の歓迎会(2月16日)10日、国会選挙に大勝して来日。この日、東京で開かれた頭山満らの歓迎会にのぞんだ。3月、孫文(48)は宋教仁暗殺の報に急遽帰国。9月、袁世凱打倒の「第二革命」に失敗し、日本に亡命する。

CORBIS-BETTMANN／PPS

大正2年2月

1(土)●第一回極東選手権競技大会をマニラで開催。

2(日)●陸軍医務局長・森鷗外、宮中御用係(医療顧問)に任命される。現職兼任は異例。

●「早春賦」掲載の「新作唱歌・第三集」発売。

3(月)●トルコ、バルカン同盟と戦闘再開(5月停戦)。

4(火)●果実、蔬菜、花卉の輸出増大、ミカンが半数占め、露向けリンゴも著しい伸び、と新聞に。

5(水)●再開議会に政友会など内閣不信任案上程。尾崎行雄「玉座を以って胸壁となし」の弾劾演説。

6(木)●福岡県二瀬炭坑でガス爆発、死者一〇三人。

7(金)●桂首相や国民党離党者が立憲同志会を結成。

8(土)●東京の公娼三万九〇〇〇人、私娼四〇〇〇人、花柳病は公娼四、私娼二四%で増加と警視庁。

9(日)●天皇、政友会総裁・西園寺公望に政争緩和の優諚(10日政友会倒閣を決定。西園寺違勅事件)。

●メキシコでビクトリアーノ・ウエルタが軍事クーデター(19日、大統領就任を宣言)。

10(月)●内閣、不信任回避で三日間の議会停会命令。

●護憲派民衆が議会を包囲、各所で警察署・政府系新聞社襲撃。軍隊出動(暴動全国に波及)。

11(火)●第三次桂太郎内閣総辞職(大正政変)。

●日本結核予防協会(理事長・北里柴三郎)設立。

●小川春之助商店開業(この年トンボ鉛筆発売)。

12(水)●山本権兵衛に組閣の大命降下(19日、政友会、山本内閣支持決議。20日、山本内閣成立)。

13(木)●孫文が長崎到着(16日東京で頭山満ら歓迎会)。

14(金)●東京帝大教授・上杉慎吉が桐花学会を組織し、国体明徴、神ながらの思想を主張。

15(土)●青鞜社、東京で「新しい女」講演会を開催。

16(日)●文部省、外国語学校のスペイン・朝鮮・中国語速成科(一年)の認可を決める(4月開設)。

17(月)●京都立憲青年会の発会に二万人参集。

18(火)●古寺保存調査会、書画など七九件に補助金。

19(水)●東京・大阪大角力、二六年ぶりに和解・合併式。

20(木)●東京・神田書店街大火、二一〇〇戸焼失。

21(金)●京都・高台寺の鐘楼、焚き火の失火で焼失。

22(土)●軽便鉄道協会設立(後に私設鉄道協会と改称)。

23(日)●尾崎ら政友会の入閣反対派、政友倶楽部結成。

24(月)●飛行機演習従業者に手当給与の勅令公布。

25(火)●米政府、所得税課税権を獲得、年収三〇〇〇以上の高額所得者に累進課税。

26(水)●東大寺大仏殿の改修工事が完了。

27(木)●盲唖学校は三府一三県に五十余校、と新聞に。

28(金)●横浜市会、外国人滞税問題の強行解決を決議。

▲島崎藤村、渡仏(3月25日)「日本の近代をきわめたい欲求」をいだき、4人の幼い娘たちをおいての3年間におよぶ旅だった。41歳。写真は出発前、知人宅で。

▶山本内閣、前途多難(3月)「大正政変」で成立したが、閥族の長老だったため、憲政擁護派の批判はやまなかった。写真は、抗議の演説をする長老・大隈重信(75)。

毎日新聞社

▲米・新大統領に民主党のウィルソン(3月4日)独占企業を抑制する「ニュー・フリーダム」策が受け、共和党分裂にも助けられた。56歳。選挙中、「強い大統領」を訴え続けた。

「写真タイムス」

▲日本初の飛行機墜落事故(3月28日)東京・青山練兵場の訓練を終えたブレリオ式陸軍機が、所沢に帰還中、突風で左翼を失い山林に激突。乗員二人は即死した。

ユニフォトプレス

▲ギリシャ国王・ゲルギオス1世暗殺(3月18日)英・仏と、独・オーストリア争闘の渦中の出来事。親独派のコンスタンティノスが継ぐが、英・仏の圧力で譲位。

◀嘉納治五郎(52)、帰国(3月6日)前年、IOC日本初代委員として、ストックホルム五輪に日本初参加を実現。五輪後、体育事情調査のため欧米を歴訪していた。

「写真タイムス」

大正2年3月

1(土)●西川文子ら新真婦人会結成。青鞜社に対抗。

2(日)●輸出好調で石炭価格が平均三割急騰と新聞に。

3(月)●ワシントンで女性五〇〇〇人が婦人参政権デモ。見物の男性群衆に乱暴され混乱。

●露でロマノフ王朝誕生三〇〇年記念祝典。

4(火)●米大統領に民主党のウィルソンが就任(15日、史上初の「記者会見」)。

5(水)●三越呉服店、初の国産化粧品展示・販売会。

6(木)●陸軍、軍隊教育令公布。日露戦争後の部隊教育の根幹を「精神と軍紀」の訓練とする。

7(金)●海軍、二年度の整理艦船を戦艦四隻、駆逐艦七隻など三五隻と発表。

8(土)●「赤十字記章等濫用に対する処罰」の勅令公布。

9(日)●大阪・中之島公会堂の地鎮祭を挙行。

10(月)●柳田国男ら、民俗学研究誌「郷土研究」を創刊。

11(火)●ロサンゼルス在留邦人の母国観光団が来日。

12(水)●大蔵省、鉄道会計改善のため英貨鉄道証券・債券の発行を発表。

13(木)●警視庁、警察官四七〇〇人動員し、全市で放火一斉取締り実施。浮浪者ら一二〇人拘引。

14(金)●「貸自動車」一時間三円五〇銭の広告が新聞に。

15(土)●植民地経営の東洋拓殖㈱、国内で資金調達できず、外債二〇〇〇万円分をパリで発行。

16(日)●大阪の関西連合護憲・閥族打倒大会に五万人。

17(月)●軍人傷痍記章条例公布。戦傷と公傷の二種。

18(火)●ギリシャ国王・ゲオルギオス一世が暗殺され、親独的なコンスタンティノス一世が即位。

19(水)●逓信省、英と電信為替交換業務を開始。

20(木)●中国国民党の宋教仁が襲撃される(22日死去)。

21(金)●日華貿易会設立、粗製乱造による中国での日本製品の信用失墜回復をめざす。

22(土)●東京市、吏員一三%削減など行政整理を決定。

23(日)●京都の四条大橋、東京の業平橋で開通式。

24(月)●衆院、多治見線など鉄道四線敷設案を可決。

25(火)●島崎藤村、フランスに向け新橋駅を出発。

26(水)●貴院、二年度予算案五億八四九二万円を可決。

●チャーチル英海相、対独比一〇対六の維持と、軍艦建造一年間停止を各国に提案。

27(木)●上山草人ら帝劇で「ファウスト」初演。

28(金)●所沢で陸軍機墜落し二人死亡。日本初の事故。

29(土)●上智大学の設立認可(5月31日開校)。

30(日)●西本願寺の第一回什宝競売の下見に、三万人(31日西行、光琳、応挙など総額五〇万円落札)。

31(月)●海軍、行政整理のため将・佐官七〇人を整理。

「写真タイムス」

▲愛犬コンテスト（4月27日）東京畜犬協会が主催、上野・精養軒の庭園に、よそゆきの首輪をつけた約200匹が集合、"美男美女"を競った。1等入賞8匹はプードル、セントバーナード、ポメラニアン、ポインターなどだった。

「写真タイムス」

▲宿命の棋士対決（4月6日）関根金次郎八段（左、44）打倒を宿願とする坂田三吉七段（42）が、ついに東京で対局。熱戦のすえ、坂田が勝った。大阪での再戦は関根が雪辱した。中央は12代名人・小野五平。

▼東京高商で英語劇（5月）東京・神田一ツ橋の、後の一橋大英語会が上演。同校の英語劇は有名で、客席に市民の姿も目立った。この頃活発になったクラブ活動のひとつ。

◀米の排日法に抗議（4月）カリフォルニア州議会で審議中の、外国人土地所有禁止法が人種差別だと問題化。写真は日米同志懇談会で、反対演説する渋沢栄一会長。翌月、連邦政府の反対の中、成立した。

▶中華民国両院が開会（4月8日）各戸に五色旗はためく北京で、第1回正式国会を開催。参院177・衆院500人の議員が出席したが、袁世凱総統は顔を出さなかった。

「写真タイムス」

▶英国東洋艦隊、横浜に入港（4月24日）新任司令官の乗る旗艦「ミノトール」と、巡洋戦艦「モンマウス」「ケント」の3艦が横浜沖に姿を見せ、前日来碇泊中のドイツ東洋艦隊の2艦と威容を競った。写真左、礼砲を轟かす「ミノトール」。

「写真タイムス」

大正2年4月

1（火）●北陸本線の米原—直江津間が全通。
2（水）●英の婦人参政権運動家・パンクハーストの裁判が始まる（判決は懲役三年）。
3（木）●北海道拓殖銀行、拓殖債権一〇〇万円発行。
4（金）●東京・亀戸で窃盗犯逮捕に駆けつけた巡査が犯人の張った電線に触れ感電、即死する。
5（土）●上野・精養軒で「にゃんにゃん猫展覧会」開催。
6（日）●将棋の坂田三吉七段、関根金次郎八段に勝つ。
7（月）●内務省、荒川第一期改修工事の用地買収完了。
8（火）●中華民国の第一回正式国会、北京に召集。
●中勘助「銀の匙」、「東京朝日新聞」連載開始。
●野口英世、梅毒と中枢神経系疾患の関係についての研究論文を、専門誌に発表。
9（水）●朝鮮産出の米・籾の移入税廃止を公布。
10（木）●芝・増上寺大殿の起工式。工費一〇〇万円。
11（金）●工業所有権保護に関するパリ同盟条約公布。
12（土）●電車に轢かれた広島の少年、鉄道会社に二万四〇〇〇円の損害賠償を求め提訴。
13（日）●米国のサンドバック、ジッパーの特許権取得。
14（月）●西本願寺改革のため中央同志会発会式。宗会の権限拡大・信徒の宗会参加など決議。
15（火）●京王電気軌道（現・京王帝都電鉄）の笹塚—調布間が開通。新宿—笹塚間のバス営業開始。
16（水）●大胆な柄のモスリンが流行、と新聞に。
17（木）●長谷川好道参謀総長、軍部大臣現役制廃止に反対を表明（22日、木越安綱陸相、廃止を承認）。
18（金）●中学生の呼吸器疾患と肺結核が漸増と新聞に。
19（土）●東京市電局、前年度純益金一四万二〇〇〇円。
20（日）●文部省、婦人雑誌の「反良妻賢母主義的婦人論」の取締り決定（雑誌「青鞜」発禁）。
21（月）●独の大型豪華船「インペラトール号」が就航。
22（火）●陸軍、樺太守備隊廃止令（5月11日実施）。
23（水）●初の民間航空団体、帝国飛行協会設立。
24（木）●ニューヨークのマンハッタンに二四〇㍍のウールワース・ビルディング完成。高さ世界一。
25（金）●勇退する新渡戸稲造一高校長が告別演説。
26（土）●大阪で実業同志会の発会式を開催。
27（日）●袁世凱、中国国会無視し日英など対中国五カ国借款団と二五〇〇万ポンドの借款契約に調印。
28（月）●東京市図書館幹事会議、巡回文庫実施を決定。
29（火）●神奈川県座間村の大凧あげで、一九歳の男性が一五㍍上空に吊りあげられ墜落死。
30（水）●東京電灯、五月からの電灯設置工事開始を決定。軒先の石油ランプ廃止へ。

証言・あの日この日
鈴木茂三郎（20）

2月10日（月）〈早稲田大学予備校へ入学する試験準備のため神田の夜学へ通っていた当時、政界に護憲の大衆運動がおこった。/私はこの事件にたいして、異常な興奮をおぼえた。神田の青年会館で開かれた全国青年大会に、愛知県青年代表という資格で演壇に立った。これは、私のおこなったはじめての演説である。日比谷中心の焼討ちには、私も群衆のなかにあって、交番に石をぶっつけた〉（鈴木茂三郎『ある社会主義者の半生』）

陸軍大臣・上原勇作の辞表提出から始まった「大正政変」は、政財界や民衆をも巻きこんだ一大騒乱事件に発展した。この日、激昂した群衆は「軍閥横暴」「憲政擁護」を叫びながら、議会周辺から日比谷公園へ向かい、やがて新聞社襲撃、交番焼討ちへと暴走した。その中に後の社会党委員長・鈴木茂三郎の姿もあった。（山崎行太郎）

「写真タイムス」

▲慶大、スタンフォード大に連勝（5月29日）東京・三田綱町グラウンドで行われた日米野球戦で、延長12回3対2で破り、翌月1日も猛打爆発、8対3で勝った。写真は、慶応幼稚舎児童による米チームの応援。

「写真タイムス」

▲昭和天皇、奥多摩に遠足（4月7日）この時、東宮殿下で11歳。学習院初等科の140人とともに、列車で多摩川上流に向かった。写真は、魚とたわむれる東宮。右は弟の淳宮（秩父宮）。

▼遠足の渡し船が転覆（5月6日）東京の湯島小学校児童509人が、千葉方面で遊んだ帰途、江戸川対岸に向かう際の出来事だった。潜水夫を加えた捜索もむなしく、3人が帰らなかった。

「写真タイムス」

▲市ケ谷監獄跡地で地鎮祭（5月18日）跡地の大部分は住宅地になるが、西北隅の刑場跡は、明治28年、石川島から移転して以来の場所。ここに観音堂を建立して、刑死者を祀ることになった。式典には通称「首斬浅右衛門」も参列、家伝の斬首刀が奉納された。

▼ワーグナー生誕100年記念祭（5月22日）東京音楽学校（現・東京芸大）奏楽堂で、盛大に開催。宗教学者・姉崎正治の講演の後、「ローエングリン」「タンホイザー」など、ドイツの生んだ偉大な作曲家の作品11曲が、次々に演奏された。

「写真タイムス」

大正2年5月

1（木）●関西最初の球場、大阪・豊中野球場が開場。
2（金）●米・カリフォルニア州議会、外国人土地所有禁止法案を可決（19日、知事が署名、発効）。
3（土）●武石浩玻、西宮の鳴尾競馬場で初の民間飛行に成功（4日、京都・深草練兵場で墜落し死亡）。
4（日）●函館市で大火、焼失一五〇〇戸。
5（月）●鉄道院、東京・神戸など四管理局の設置決定。
6（火）●英下院、一部婦人に参政権を与える法案否決。
7（水）●横浜市、水不足のため二割の給水制限実施。
8（木）●北海道の旭川、釧路、天塩などに降雪。
9（金）●駐米大使・珍田捨巳、カリフォルニア州の外国人土地所有禁止法制定を国務長官に抗議。
10（土）●内務省、私設水道の営業不認可方針を決定。
11（日）●全比野球団が来日（27日スタンフォード大も）。
12（月）●東亜気象台長会議開催。気象観測では初の国際会議で、信号標識の統一など協定。
13（火）●東京市会、新水源地を確保するため、小河内村の山林買収を決議。
14（水）●米国でロックフェラー財団設立。基金一億㌦。
15（木）●千葉・袖ケ浦漁民三〇〇人、アサリ採取で乱闘。
16（金）●大阪相撲の頭取、力士ら一八人を賭博で逮捕。
17（土）●大阪砲兵工廠、軍用トラックの試作に成功。
18（日）●帝国通信社、国技館で香水つき夕刊を配布。
19（月）●宮崎滔天、革命軍支援で上海に向け長崎出港。
20（火）●前年度の日本人渡米者八五八九人、写真結婚による女性が半数占めると米移民局調べ。
21（水）●日本郵船「讃岐丸」に無線電信局を設置。
22（木）●実利思想が浸透し、農・工・商の実業学校生は五年前の四倍二万二〇〇〇人に増加と新聞に。
23（金）●農商務省、低利産業資金三〇〇万円を交付。
24（土）●第一回全国訓導協議会を東京高師で開催。
25（日）●三菱長崎造船所の鋲打工五〇〇人、工事割当めぐりスト突入（28日解決）。
26（月）●列車内スリで知られた「鼬の勝」、逮捕される。
27（火）●気象官・和田雄治、大阪毎日新聞社の後援で、海流瓶を放流する日本近海の海流調査を開始。
28（水）●海軍水路部が沿岸水路の測量を完了と新聞に。
29（木）●ストラビンスキーの「春の祭典」がパリで初演され、センセーションを巻き起こす。
30（金）●ロンドン条約成立し第一次バルカン戦争終結。トルコはバルカン四国に領土割譲。
31（土）●米国憲法改正。上院議員を直接選挙で選出。
●鉄道院、西欧旅客連絡の実施決定。パリ四三六円など（6月10日、切符発売）。

日録 20世紀 1913 6月

毎日新聞社

▲桜楓会、託児所開設（6月）日本女子大の組織が、小石川区の「貧民街」を対象に設立した。長屋の6畳・3畳と、6畳・4畳半の2軒の壁を取り払って一室にし、前庭の100坪を運動場とした。託児料は一人1日1銭。働く女性の子だけを受け付けた。

▲西本願寺が改革大会（6月11日）京都・西本願寺の門末信徒150人が東京・日本橋に参集。法主・大谷光瑞の借財480万円など「暴状」を訴え、教団の改革を確認。翌年、事態は「疑獄事件」に発展した。

西日本新聞社

▲博多に初の活動写真館（6月19日）常設館の世界館が東中洲に開館。仮設館や巡回興行だけだったため、連日大入り。写真は尾上松之助「弁慶一代記」のお盆興行。

「写真タイムス」

◀シャム（タイ）新国王から、宝扇授与（6月7日）明治44年のラーマ6世戴冠式に、仏教各派が祝賀使を派遣した謝礼。東京・護国寺で関東各派代表への頒与式を挙行した。新国王は、開明君主として知られる。

▼第2次バルカン戦争勃発（6月29日）旧トルコ領の分割を火種に、「世界の火薬庫」バルカン半島に再び戦火が広がった。結局、セルビア、ギリシャなど四方を敵にまわしたブルガリアが大敗、「第1次」で得た領土の大半を失った。写真は、整列するブルガリア兵。

CORBIS-BETTMANN PPS

▶世界初、無線電話に成功（6月4日）横浜の逓信省経理局から、96キロ沖、大島付近を香港に向けて航行中の「天洋丸」へ通話（左）。さらに、22日には神戸に向かう「春洋丸」に、技師が乗りこみ、136キロ間の通話に成功した（右）。世界に先んじた快挙だった。

「写真タイムス」

大正2年6月

- 1（日）●松本幸四郎、川上貞奴ら帝劇で「トスカ」上演。
- 2（月）●年間消費が五億本に増加したサイダーに、大蔵省が課税を検討中、と新聞に。
- 3（火）●門司駅に関釜船と列車との桟橋完成。
- 4（水）●横浜の逓信省経理局と航行中の「天洋丸」とが通話連絡に成功。無線電話が初めて実用化。
- 5（木）●政府、広軌改築準備計画の中止を決定。
- 6（金）●京都・西陣機業、不況のため破産続出し一月以来約四〇件に達する、と新聞に。
- 7（土）●アラスカのマッキンリーにスタックら初登頂。
- 8（日）●日本郵船の欧州航路用貨客船「鹿島丸」が進水。
- 9（月）●高松凌雲、窮民施療により藍綬褒章を受ける。
- 10（火）●森永製菓、ミルクキャラメルを発売。
- 11（水）●銅像建立が全国で大流行し、東京では五〇基を超え建立地不足が深刻、と新聞に。
- 12（木）●浅草の宝泉寺で六〇年前埋葬のミイラを発見。
- 13（金）●山本権兵衛首相、行政整理案発表。官吏六四二八人整理などで七〇〇〇万円削減。●官制を改正し、陸・海軍大臣の現役制撤廃。
- 14（土）●南ア、移民法制定。アジア人の入国・移住を制限（16日、黒人の土地購入・借地を制限）。
- 15（日）●呉海軍工廠が開発した航空機攻撃砲を試射。
- 16（月）●逓信省、全国水力発電適地調査を終了。
- 17（火）●日本オーストリア通商航海条約公布。
- 18（水）●陸軍省、全国の自動車総数四六二台、東京一六二、神奈川三三、三重一七台の順と発表。
- 19（木）●前年度の出版物四万五六〇〇冊、と新聞に。
- 20（金）●ロンドンの日本公債、行政整理に好感し急騰。
- 21（土）●米国で女性初のパラシュート降下に成功。
- 22（日）●台湾沿岸の海賊取締りに駆逐艦を派遣。
- 23（月）●高峰譲吉、国民科学研究所（後の理化学研究所）設立を提唱。協議後、設立案を決定。
- 24（火）●陸相に楠瀬幸彦就任。土佐出身の非長州閥軍人で山県有朋などの意向無視した異例の選任。
- 25（水）●台湾総督府、軍と警察による高地族征討作戦を開始（～8月30日。高地族三五〇人殺害）。
- 26（木）●東京府、四警察署・三八〇派出所の建設を決定。
- 27（金）●東京電灯、世論の反対にあい日本電灯の買収、桂川電力の合併契約を解消する。
- 28（土）●川崎の日本蓄音器商会争議、友愛会の鈴木文治が指導し解決。友愛会初の争議。
- 29（日）●ブルガリアがセルビア、ギリシャを攻撃。第二次バルカン戦争勃発（8月講和成立）。
- 30（月）●独議会、陸軍七五万人の軍備大拡張予算可決。

「現場」を歩く 溜池

弁士・徳川夢声が活躍した「ハイブロウな」葵館と映画史

山本徹美

▲葵館跡地は、現在東芝ＥＭＩビルに。溜池は、慶長11年、人工湖として造成された。　但馬一憲

大正二年七月、東京市赤坂区溜池町三〇番地に、葵館がオープンした。

葵館は、正面と四方に尖塔を配し中世西欧の城館を連想させる建物だったが、館内では活動写真を上映。明治四五年七月設立の日本活動フィルム株式会社こと日活が直営する興行館であった。すでに活動常設館は浅草六区に集中していて、一般大衆の娯楽として定着しつつあった。

これに対し、葵館は上流階級やインテリを客層としてねらったものだった。

映画評論家の児玉数夫氏（大正九年生まれ）が、父親から聞いた話を披露する。

「外国の政府高官が自動車で乗りつけたり、旦那衆が芸者を連れて来るなど、庶民がしりごみする雰囲気を漂わせていた」

館内には活動女給が三〇人前後いて、客席に案内。入手困難で高価な舶来ウイスキー「キング・ジョージ」などを、入場料と同額の一杯三〇銭で販売していた。大正四年、東京府立一中卒のインテリ活動弁士・徳川夢声が葵館専属になると、「ハイブロウな劇場」として定着。夢声が迎えた妻は葵館の活動女給だった。

関東大震災で倒壊した葵館は大正一三年に再建。それは箱型の建造物だった。

「幕の絵柄が斬新で、女性の太股がにゅっと突き出し、麻雀牌やABCなどがシュールなタッチで描いてある。劇作家・村山知義の作でした」（児玉氏）

廃館して駐車場に

葵館のあった溜池に行ってみる。平成九年九月三〇日、地下鉄南北線と銀座線の溜池山王駅が開業。同駅八番通路から地上へ。眼前に東芝EMIビルが建っている。そこが葵館跡地に相当する。

「当社は昭和三五年設立ですが、以前ここにはフロリダというダンスホールがあったとか。葵館について知るものは、うちにはおりません」（東芝EMI広報課）

現在はオフィスビルが整然と立ち並んでいるが、明治初年、この地域一帯はその名のとおり「溜池」という池だった。それが干拓工事によって、同一八年頃には細い流れとなり、大正初年までには側溝に。

「葵館では裏側の扉を全部開いて風を入れるのだった。するとその外を大どぶが流れているので、いや応なしに溝の臭いが館内にはいって来る」（多賀義勝『大正の銀座赤坂』）

大正年間、映画界は好況に恵まれ、日活は大震災での損失一二〇万円をわずか三ヵ月で補塡したほど。が、昭和恐慌と会社内における経営陣の対立抗争により、危機におちいる。昭和三年、葵館の直営を廃止。三年後直営復活、同七年末にはまたも廃止。同一〇年末には廃館、駐車場に。

「屋根つきのガレージになったけど、敷石だけは葵館当時のもので、その石を踏んで懐旧にふけったものです」（児玉氏）

マツダ映画社の松戸誠専務によると、活動弁士や活動小屋に関する資料は稀少で、ほとんどが謎だという。重要な役割をはたしながらも映画史から消えようとしているのは、実に残念でならない

▲葵館全景。主任弁士・福原駿雄は、葵が徳川の家紋であることから、芸名を徳川夢声に。

ベストセラー

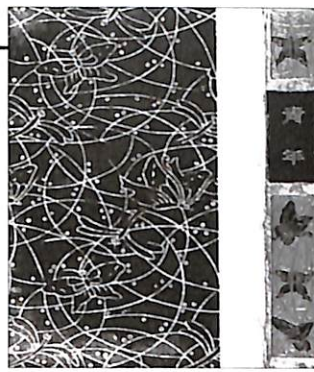
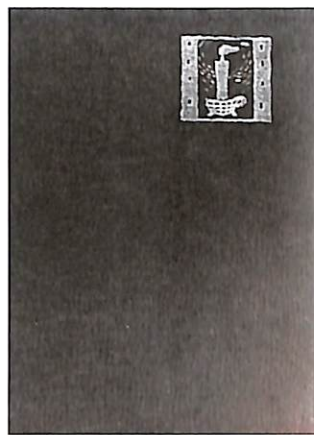
森鷗外の『青年』が描いた時代の先端をゆく若者像

この年二月に刊行された森鷗外の『青年』は、時代の最先端をゆく青年の思考と行動が描かれていて注目された。主人公は小泉純一。東京に出て来てまもない学生だが、たとえばこんな一節がある。

「十一月二十七日に有楽座でイプセンのJohn Gabriel Borkmanが興行せられた。これは時代思潮の上から観れば、重大なる出来事であると、純一は信じてゐるので、自由劇場の発表があるのを待ち兼ねてゐたやうに、早速会員になつて置いた」

若者の意気ごみが伝わってくるが、この劇場で知り合った未亡人を相手に初めて性体験をした時の動揺もまた、若者らしい純朴なものだった。「己が知る人になるのに、こんな機縁で知る人にならうとも予期してゐなかつた。己は必ず恋愛を待つて、始て知る人にならうとも思はなかつたが、（中略）そしてあの坂井夫人は決して決して己の恋愛の対象ではないのである」と。

◀「青年」（籾山書店、1円）
日本近代文学館提供

また四月に永井荷風がフランス訳詩集『珊瑚集』を上梓して評判を呼んだ。軍部がはばをきかせるようになっていく時代の雰囲気を敏感に感じとっていた荷風は、そんな流れに抵抗するかのように、西洋文化の根幹に触れるような訳詩集をまとめたのである。序文には「蓋し詩歌の遂に世に容れらるる事難きを知り深く自ら嘲るの意に外ならず。文壇の反感を招く事なくんば幸甚」と記してあるが、ここで言う文壇とは、時代の流れにそった権威であり、時代そのものだった。内容はボードレール、ランボー、ヴェルレーヌなどの詩の翻訳のほかに、写真版として「ボオドレエル自画像」やボードレールの「悪之華の碑」「ヴェルレエヌの写真」などが挿入された、洒落た本だった。

自然主義文学の方からは、徳田秋声の長編小説『爛』が七月に刊行され、人気を呼んだ。遊廓から落籍れて、ある男の愛人として日常生活を送るようになった女性がヒロインのこの小説には、女の愛憎がリアルに描かれており、この当時としては刺激的な作品だった。

▲「爛」（新潮社、50銭）

▲「珊瑚集」（籾山書店、1円）

スターと名場面

「頗る非常大博士」で人気！弁士・駒田好洋の全国巡業

この頃になって、映画の人気は次第に定着してきたが、映画を単色無声のメディアから脱皮させようという動きも、大正二年あたりから目立ってきた。エジソンが蓄音機と映写機を連結させた「キネトフォン」を発明したのもそのひとつで、まがりなりにも映像とサウンドを同時に楽しむことができた。これが日本にも輸入され、独自の「キネトフォン作品」が製作されるにいたった。また、これと時を同じくして実現したのが、カラー映画だった。イギリス人が開発した技術で、被写体を赤と緑に分解して撮影し、映写の時も二色のフィルターを通すことで、自然色に近い映像を得るというもの。しかし、これらの試みは技術的、コスト的に問題が多く、長くは続かなかった。

またこの年、日活は本社に弁士学校を開設、弁士の本格的養成に乗り出した。弁士は、映画の興行人気を決めるスター的存在にほかならなかったからだ。その先鞭をつけたのは、「頗る非常」という形容句を連発する独特の弁舌スタイルで人気を呼んだ駒田好洋だった。みずから「頗る非常大博士」と名乗った駒田はまだ常設映画館の少なかった時代から、小編成のバンドをともなって全国を巡業してまわり、映画の普及にも多大な貢献をしたのである。

舞台では、この年一二月、芸術座が帝国劇場の女優劇に割りこむ形でワイルド作「サロメ」を初演した。

▶興行師、弁士として活躍した駒田好洋。

▼「サロメ」では、サロメを松井須磨子、ヨカナーンを澤田正二郎と人気絶頂の二人が演じた。

田中純一郎提供

▲「キネトフォン」で製作された第一回作品、長唄「稚美鳥末広狩（わかみどりすえひろがり）」。

モノ語り'13

「森永ミルクキャラメル」「シンガーミシン」「大正琴」女性、子ども向けに超ヒットが続出！

▼金銭登録機を日本商店向けにリメイク 金銭登録機そのものは、明治39年にアメリカから輸入されていたが、価格の点と日本の経理事情に合わず、あまり売れなかった。そこで、引き出しを開けようとすると出入金の伝票が自動的に送り出され、伝票の書き忘れなどが起きないようにした新型機が開発され、「金銭記録出納機」という名称で特許を取得。これを伊藤喜商店（現・イトーキ）が「ゼニアイキ」の名で売り出して、大好評を得た。月賦価格で、1台60円だった。

水島衣裳雑貨博物館蔵／山口隆司

▲ミシンがさかんに使われるようになった 洋装化の進行と軌を一にして進んだのが、ミシンの普及だった。この頃、日本のミシン市場を席巻したのはアメリカの「シンガーミシン」で、その月賦販売と直営店システムによって顧客層を広げ、シンガーの名はミシンの代名詞として用いられた。

▶キャラメルにミルクがついた 明治32年の創業以来、キャラメルの製造販売を手がけてきた森永製菓が、この年、初めてミルクの名を冠した「森永ミルクキャラメル」を発売した。しかし、まだ箱入りでなくバラ売りの時代で、その一粒一粒をエンゼルマーク入りのワックスペーパーで包んで、売り出されていた。価格は1斤80粒40銭で、1粒当たり5厘だった。なお、大正3年からポケット用紙サックが考案され、一定の個数単位で売られた。

◀和洋折衷を地でいった楽器 この頃、名古屋のミュージシャン・森田伍郎が、ピアノと琴を一体化させたような楽器「大正琴」を考案し、世に送り出した。これが、家庭用楽器として、大流行することになる。長さ60～70センチくらいの胴の上に2弦を張り、小さい円形のキーを押して弦の長さを調節しながら、ピックで弾いて音を出すというもの。和音は出せないが、単音の旋律は簡単に出せるので、人気が高かった。

浜松市楽器博物館蔵／平山亮

結局は印刷のプロが当選

大正2年1月、新しい切手の図案を公募することが発表された。締め切りは3月15日、審査員に気鋭の洋画家・岡田三郎助らが顔を並べたことや、1等賞金が200円という本格的な懸賞だったために大いに注目を集めたが、ふたを開けてみると、1等の田沢昌言をはじめ、東京印刷局の職員が圧倒的に上位を占める結果となった。やはり印刷を熟知した専門のデザイナーでないと、切手のデザインはむずかしかったようだ。

◀公募で作品が採用された、印刷局の図案官・田沢昌言。

▼公募による図案の切手が発行された 大正に入って初めての普通切手が、公募で当選した図案を採用して、発売された。5厘切手から1銭5厘切手、3銭切手など、1円切手まで9種類あった。当選者の名を冠して、「田沢型大正白紙切手」と言われた。

お札と切手の博物館蔵

▶女学生のお洒落は止まらない この頃の女学生は、時代の変化を敏感に感じ取り、次々に新しいお洒落の方法を生み出していった。従来の2倍はあろうかという、幅7～8センチの「幅広リボン」もそのひとつで、色と柄の多様性を大いに楽しんだ。シースルーものも、人気があった。

水島衣裳雑貨博物館蔵　山口隆司

人物クローズアップ

岩波茂雄（三二）

教職を捨てて古書店を開業！「岩波文化」創始者の二大功績

大正二年八月五日、岩波茂雄（三二）は東京・神田区（現・千代田区）の南神保町交差点に近い貸店舗で、岩波書店という古書店を開店した。神田高等女学校（現・神田女学園高校）の教師を四年間つとめた後、自分には教師としての資格がないとの自覚から、職を辞して開業したのである。大学を出て教職についた岩波には、商売は未知の世界だった。

当時の出版物は値引き販売が主流で、新本でも小売店では表示価格から一割ほどを差し引いて売った。古本なら値引きは当然で半額引きも珍しくなかったが、そのため小売店では掛け値で価格を示し、後は客と店との駆け引きで値段が決まった。こうした業界に、素人の岩波が敢然と正札販売を打ち出したのである。

そうと決めたら後には引かないというのが岩波の性格で、海千山千の業界人に伍して彼は自分の意志を貫きながら、出版界に正札販売のルールを定着させることになるのである。

岩波茂雄は、明治一四年八月二七日、長野県諏訪郡中洲村（現・諏訪市）生まれ。二八年に諏訪実科中学校（現・諏訪清陵高校）に入学。三二年、同校を四年で中退し、東京の日本中学に編入入学した。同校の校長・杉浦重剛の教えに共鳴したものだが、杉浦は国粋主義的な教育者であり、後の岩波を考えると興味深い。

三四年、第一高等学校に入学。この一高入学が、岩波の大きな財産となった。阿部次郎、荻原井泉水（本命・藤吉）、安倍能成、中勘助ほか、多彩な同窓生たちとの交流が、後の出版事業に大きく貢献することになるのである。しかし、岩波は一高を卒業していない。三六年と三七年に続けて落第し、除名処分となった。

三八年、東京帝大文学部哲学科選科入学。ここでは小宮豊隆などの友人を得た。

岩波が、古書販売のかたわら出版を始めたのは開業の翌年からで、夏目漱石が自費出版した『こゝろ』が、岩波が出版界に本格的に進出するきっかけを作った。岩波の友人である阿部次郎、安倍能成、小宮豊隆などが、漱石の弟子として漱石山房に出入りしていた関係から、岩波も漱石の知己を得ることになったのである。

大正五年に漱石が亡くなり、弟子たちは『夏目漱石全集』の刊行を企図、岩波書店が出版することになった。これが岩波書店発展の端緒となる。

昭和二年、当時の円本ブームに対抗して岩波が世に問うたのが、岩波文庫の創刊であった。評論家の紀田順一郎氏は、岩波の出版界における功績をこう語る。

「ひとつは本の正札販売を定着させ、価格の近代化をはかったこと。もうひとつは岩波文庫の創刊で、廉価販売によって文化と学問の大衆化をめざしたことです」

哲学科出身の岩波は、西田幾多郎、田辺元などの哲学書を刊行するとともに、自然科学、数学、法学、経済学、歴史学などの書籍を次々と刊行。アカデミズムの色濃い「岩波文化」を築き上げる。

第二次大戦後の昭和二一年二月、出版人として初の文化勲章を受章。その二カ月半後の四月二五日、脳溢血の二度目の発作で死去。六四歳だった。

▼夏目漱石がみずから装幀した『こゝろ』。

▲大正10年10月に催された、斎藤茂吉留学渡欧送別会の席上で。前列左から二人目が斎藤茂吉、3人目は安倍能成、右端は折口信夫。中列左から二人目が小宮豊隆、3人目は平福百穂、一人おいて5人目が岩波茂雄。

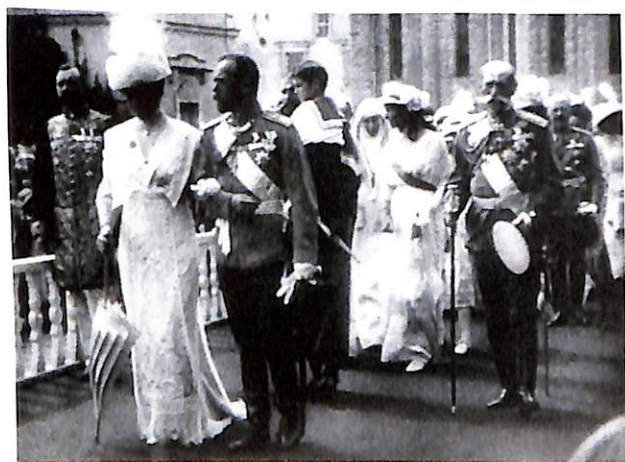
▶大正六年一月二六日に、前年一二月九日死去した夏目漱石の絶筆『明暗』が発売された。当日、店頭に勢ぞろいする岩波茂雄（右から四人目）と店員たち。

岩波書店提供（右上も）

決定的瞬間

五年後には全員が銃殺に！ 「王朝誕生三〇〇年」を祝う ロマノフ一家“最後の栄光”

▶冬宮を出発する祝賀パレード。「血の日曜日」事件以来、威信が揺らいでいたロマノフ家にとって、300年祭は久方ぶりの明るい話題となった。

▼6月、モスクワのクレムリンで催された記念式典に出席したニコライ2世と皇后・アレクサンドラ。背後の少年は、当時8歳の皇太子・アレクセイ。

一九一三年三月三日、ペテルブルグの冬宮の前にはおびただしい数の衛兵が立ち並び、ツァーリ、ニコライ二世（四五）のパレードを待ち受けていた。この年は、ロマノフ王朝の始祖となったミハイル・ロマノフがロシア皇帝に就任（一六一三年）してからちょうど三〇〇年目にあたり、「ロマノフ王朝誕生三〇〇年祭」が催されたのだ。

皇帝一行は一二時一五分に、冬宮を出発してカザン寺院に向かい、祈禱式を行って、再び冬宮に戻るというコースをとった。幌馬車（皇帝と皇太子・アレクセイ）、箱馬車（皇太后と皇后・アレクサンドラ）、四人乗りの幌馬車（四人の皇女たち）に分乗した皇帝一家は、前後を一〇〇人ずつの警護隊に守られ群衆の前を通りすぎた。冬宮に帰り着いた皇帝は、さらにコンサートホールで各国大使や貴族など、一五〇〇人にもおよぶ人々から祝賀の挨拶を受けた。

ロシア帝国は、一九〇五年の日露戦争で予想もしなかった敗北を喫し、続く労働者や農民のストライキで土台が揺らぎ始めていた。だからこそ、この「三〇〇年祭」はツァーリの権威を再浮上させる、政治的にも重要な祝賀行事であった。当日のニコライ二世の日記には「アリックス（皇后）は非常に疲れ、横になった。南西の強い風が吹いていた」（『ニコライ二世の日記』朝日新聞社）という一行がある。式典を成功させるために、皇帝夫妻も最大限の努力をしていたのだ。この式典はペテルブルグのほか、六月にはロマノフ家発祥の地であるボルガ川河畔の町・コストロマでの大記念碑の定礎式、モスクワ・クレムリンでの記念式典へと続いた。

モスクワでの記念式典の写真には、皇帝夫妻の後ろに、当時八歳の皇太子・アレクセイの顔が見える。夫妻の間には四人の王女、それに一人の王子がいた。家族の結び付きは強く、理想的な家族に見えた。しかし、その内側には深い苦悩が隠されていた。娘ばかり四人が生まれた後に、やっと待望の男子（世継ぎ）が生まれたが、そのアレクセイは血友病という難病にかかっていたのである。

血友病は皇后（英国・ビクトリア女王の孫）に由来するもので、男子にのみ引き継がれる遺伝であった。皇后にとって、最大の喜びである王子の誕生が、皮肉にも悲劇に反転する。病気は宮廷奥深くで秘密にされ、皇后は全情熱を傾けて「病気が全快する」という奇跡を待ち望んだ。こうした皇后の奇跡への渇望が、一九〇五年、グリゴリー・ラスプーチン（当時・三三歳）という怪僧を宮廷に招き入れた。彼は王子の出血を止める力があると信じられたのだ。しかし彼が行ったことは、宮廷にスキャンダルを持ちこみ、宮廷の権威を失墜させただけであった。

この家族の終末は悲劇に満ちている。三〇〇年祭を祝った四年後、一九一七年の「二月革命」でニコライは皇帝を退位、同年一一月、革命後に一家はシベリアへ流刑。翌一九一八年七月一七日には、赤軍と白軍との内戦で混乱する中、ウラル山脈の麓、エカチェリンブルグの無名の技師の家で、家族全員が銃殺された。死体はトラックで廃坑に運ばれ、斧でたたき切られ、灯油と硫酸をかけられて焼かれた。この華やかなパレードから、わずか五年後のことである。

美の出会い

大作「大菩薩峠」連載開始！ 主人公・机龍之助を描いた井川洗厓など三〇人の画家

◀「都新聞」紙上に掲載された、「大菩薩峠」連載第1回の挿絵。井川洗厓は、新聞、「講談倶楽部」「キング」などを舞台に筆を振るい、挿絵専業画家の先駆的な存在と言われる。

明治新聞雑誌文庫蔵

中里介山（二八）の時代小説「大菩薩峠」の連載が、「都新聞」（現・「東京新聞」）で開始された。大正二年九月一二日のことである。この日は、昭和一六年に第四一巻の「椰子林の巻」（最終巻）を出し、昭和一九年に介山の死で未完に終わるまで、三〇年以上にわたり断続的に執筆が続けられることになる大長編小説が始まった記念すべき日であった。

ストーリーは、ニヒルな剣士・机龍之助が、大菩薩峠で何のかかわりもない老爺を理由もなく切り捨てる場面から始まる。龍之助の諸国遍歴とともに、多岐にわたる人物が登場。大衆文学ではあるが、社会批判小説としても、また思想小説としても読める雄大な物語が展開する。介山自身は「時代小説」と目されることに不満で「大乗（仏教）小説」と称していた。この小説の構想には、明治四三年六月に起こった「大逆事件」の影響が強くおよぼされていると言われる。事実、翌四四年に幸徳秋水ら一二人が処刑されたこの事件に、介山は強い衝撃を受けていたのである。

こうしたニヒルな主人公を中心に展開する長編小説の大衆化に、実は多くの画家たちの挿絵が寄与していたことは、あまり知られていない。最初の「都新聞」連載時には、井川洗厓（三六）が筆をとった。洗厓は介山とともに、明治三九年に都新聞に入社した同僚で、このコンビで同紙に「氷の花」を連載していた。「大菩薩峠」連載開始日に載った洗厓の机龍之助の絵は、一体何が始まるのか、読者に不気味さと期待感を持たせるのに十分すぎる迫力があった。

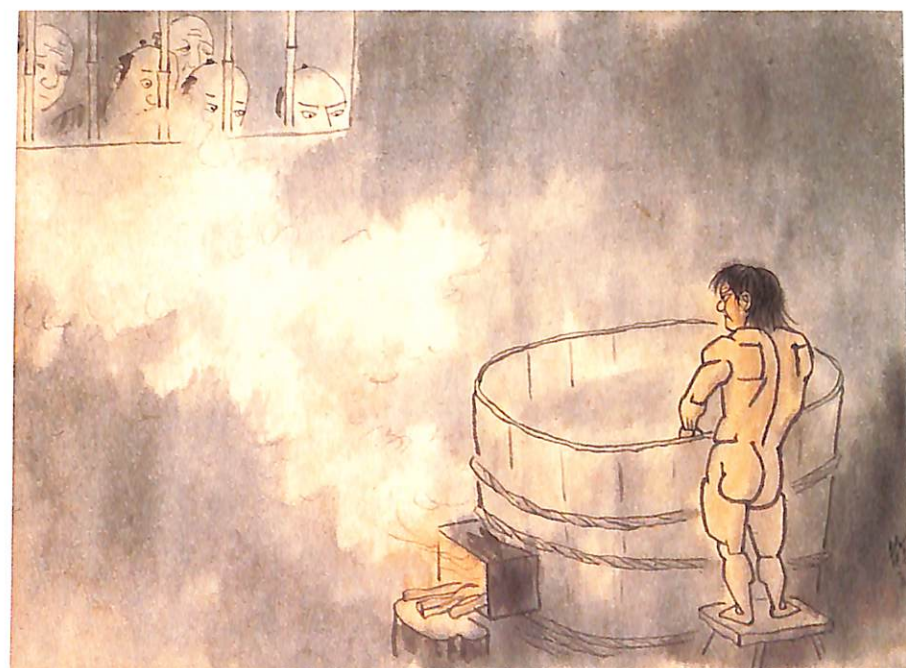
『銭形平次捕物控』の挿絵で有名な神保朋世は、少年時代から「大菩薩峠」の大ファンで、学校に行く前にかならず読んでいたという。その神保は「洗厓の挿絵はいま憶えば、少年の日の夢であり、また郷愁でもある」と記している（「中里介山読本」＝「文芸」臨時増刊号）。まるでおとぎ話の挿絵のように、少年にも親しめる絵だったのだ。

井川洗厓（本名・常三郎）は、大阪で浮世絵師・月岡芳年門下の三傑の一人と言われた稲野年恒に師事して、絵の手ほどきを受けた。明治二八年に上京してからは、都新聞の専属画家だった富岡永洗に師事し、洗崖の号を与えられる（大正五年に洗厓と改める）。この師を通じて都新聞とのかかわりが始まり、介山と出会い、コンビを組むことになった。介山も洗厓の画家気質を愛し、自分の原作を引き立ててくれたことを感謝している。

出版美術研究家の渡辺圭二氏は、洗厓の魅力について次のように述べている。

「洗厓の画風は穏やかで、人物はもとより、背景も、小道具も、丁寧に描かれている。また雰囲気描写もたくみで、誰にもわかりやすく、大正時代を代表する人気挿絵画家だった」

「大菩薩峠」の連載は、大正一四年一月からは「大阪毎日新聞」「東京日日新聞」に移り、挿絵は彫刻家で版画家でもある石井鶴三や、日本画家の金森観陽、中村岳陵らが担当した。その後も介山が主宰する「隣人之友」や「国民新聞」「読売新聞」と掲載紙・誌を替え、挿絵画家も洋画家の硲伊之助、日本画家の伊東深水らが登場する。さらに単行本の挿絵では、

◀伊東深水による「机龍之助」。深水は、鏑木清方門下の挿絵画家としてスタート。後に浮世絵系の最後の美人画家と言われ、帝展の審査員に就任。

▲石井鶴三が描いた挿絵「怪童入浴」。鶴三は、吉川英治作「宮本武蔵」の挿絵でも人気を博した

連載を担当した画家以外にも、洋画家の石井柏亭、岸田劉生、河野道勢、日本画家の小林古径らが担当、総勢三〇人にものぼる豪華な顔ぶれが並んだ。

これら並みいる画家の中でも、特に人気があったのは、石井鶴三である。鶴三が登場するまでは、挿絵はほとんどが浮世絵系の画家が担当し、原作の添え物のような位置にあり、画家の名前が出るようなこともなかった。こうした状況の中で、鶴三は原作とわたりあう迫真のイメージを、優れた描写力で表現した。しかし、昭和九年に『石井鶴三挿絵集』が光大社から刊行されると、介山は原作者の著作権を侵害するものだとして、これを告訴。当時は画家の著作権は曖昧で、マスコミはこぞってこの論議を取り上げた。最終的には、宣伝文に大菩薩峠の挿絵であることをうたわないなど介山に有利な和議が成立したが、これに納得しない介山は、新人の野口昂明に『大菩薩峠絵本』の挿絵を依頼する。机龍之助は〝文豪〟ビクトル・ユゴーの横顔を参考にするようアドバイスするなど、介山自身も挿絵についての明確なイメージを持っていたのである。

こうした画家たちによる挿絵にも支えられて、長編時代小説「大菩薩峠」は、日本の大衆小説の先駆とされ、今日にいたるまで根強い人気を保っている

▲大正7年、玉流堂から刊行された単行本『大菩薩峠　甲源一刀流の巻』に掲載された、井川洗厓の挿絵。　平凡社提供

20世紀博物館

山梨宝石博物館

五〇〇種三〇〇〇点の"輝き"が伝える地底の神秘

山梨・甲府市

桑原茂夫

▲1階フロアの半分以上を占める"宝石のジャングルジム"では、宝石の魅力を、たっぷり味わえる。 楠田守

▲海水青色のアクアマリン。146.6カラットという素晴らしいサイズの宝石。順調な航海を祈る、船乗りのマスコット石でもある。

日本で唯一の宝石専門博物館が山梨県甲府市にあるという情報を得た時、なぜ甲府に、という疑問が湧いた。普段、宝石とは縁がないせいなのだろうか。宝石と甲府という地名が、すんなりとは結び付かなかったのである。

しかし実際には、約四〇〇年前に甲府近くの昇仙峡で水晶が発見されてからのかた、原石を加工する技術がこの地で発達し、今では宝石や貴金属などの加工産地として、世界でも知る人ぞ知る町となっている。この博物館も「甲府宝石貴金属センター協同組合」が昭和五〇年に設立し、管理運営しているのである。

▲トルマリン・キャッツアイ。見る角度を変えると、猫の目のような光が、浮かび上がる。

▼白水晶の結晶。まるで、宝石の大型模型のようだ。地球活動のすごさを実感する。

館に入るとすぐ目につくのが大きな白水晶の原石で、高さにして五〇㌢ほどもあろうか、水晶独特の六角柱の結晶を示していてダイナミックだ。地球の奥深くで煮えたぎっていたマグマが、地上に押し上げられる時冷やされて美しい結晶となったものだが、水晶に限らず宝石の魅力は、その誕生の神秘性によるところが少なくない。

宝石は、地球がたゆまず活動していることを地下深くから伝える美しい使者であり、それぞれがとてつもなく長い生命を維持している存在なのである。

メノウの薄い断片を並べ下から光をあて、それぞれの断片が持つ微妙な模様を浮かび上がらせるコーナーがある。ファンタジックなコーナーだが、その美しい模様には、いかにも地底から届けられたミステリアスなメッセージといった趣がある。

この宝石博物館には、全部で五〇〇種三〇〇〇点の宝石が展示されているが、そのうち代表的な五〇種の宝石が、"宝石のジャングルジム"に納められている。金属のパイプで組み立てられた空間に、エメラルドやルビー、サファイア、アクアマリン、ダイヤモンドなどの宝石がそれぞれ展示されているのだ。しかも、それぞれの宝石について、原石と、カット石、リングやペンダントなどの製品の三点セットをそろえて展示している。

原石とカット石との間には、"磨けば光る"という宝石の大原則が横たわっている。磨くことによって、光の反射・屈折による輝きが引き出され、神秘的な魅力をたたえることになる。

キャッツアイと呼ばれる宝石がある。ネコの目のような、細い光の筋が浮かび上がる宝石だが、それがマグマの変成作用によって偶然作り出されたことを思うと、不思議な気分におちいりさえする。

またアクアマリンという、その名のとおり海のブルーを再現したような宝石を見ると、地球の暗部にこんな明るいブルーがひそんでいるとは、と信じがたい思いにとらわれるのである。宝石をこんなにじっくり見て、その魅力を味わえる機会などこれまでなかった。どんな宝石店でも、こういう機会を得るのはむずかしい大変大きな価値を持つ博物館なのだ。

▲メノウの神秘的な色模様が浮かび上がる。日本では、七宝のひとつとして珍重された。

●山梨宝石博物館
山梨県甲府市武田一―二―二
☎〇五五二―五二―三七四六
JR中央本線甲府駅下車、徒歩七分
開館時間＝九時半～一七時
休館日＝木曜日（祝日の場合は開館、八月は無休）、年末年始
入館料＝一般四〇〇円

日露戦争後の不況、重税への憤懣が爆発
民衆が主役の「大正政変」起こる！
"長州閥"桂内閣崩壊までの55日

▲2月10日、衆議院門前に押し寄せた群衆。原敬は日記に「辞職せずんば殆んど革命的騒動を起したる事ならん」と書いている。 「歴史写真」

大正元年末の第二次西園寺内閣瓦解に始まり、翌二年の第三次桂内閣の崩壊で終わった「大正政変」。そのクライマックスが、大正二年二月一〇日の「桂内閣打倒騒擾事件」だった。藩閥政治に反発する庶民の怒りは、"閥族打破""憲政擁護"をスローガンに民衆運動へ発展、大正デモクラシー運動の発芽となった。

「御用新聞をねらえ！」民衆の抗議行動が暴走

「閥族桂太郎を葬り去れ！」

「われら死して憲政を守らん！」

大正二年二月一〇日、東京・内幸町の

▲大正2年2月20日、桂の後を受け山本権兵衛内閣が成立

▲内大臣から内閣首班となったことを非難された桂太郎

▲大正元年12月5日、総辞職を余儀なくされた西園寺公望。

▲議会停会の知らせに激昂し、二六新報社に投石する群衆。

国会議事堂前は、六〇〇〇〇人の群衆と五〇〇〇人の警察官、騎馬巡査が睨み合い、一触即発の雰囲気になっていた。

五日前、野党・政友会は、

「みずからの首相就任や難航した海軍大臣の選考に詔勅を濫用する第三次桂太郎内閣は、"憲政の本義"に反する」

という理由から、桂内閣不信任案を提出。それに対して議会の停会に次ぐ停会で延命策に走る桂内閣に向けられた民衆の抗議行動は、まさにピークを迎えようとしていた。停会明けのこの日、またしても桂内閣が三日間の停会を発表すると、群衆の怒りは、「桂の犬を出せ！」という叫びとともに爆発した。

実は、"アンチ桂内閣"の世論をおさえきれないと観念したのか、桂首相（六五）はこの日すでに内閣総辞職を決意、天皇（三三）に上奏していた。ところが、その事実が伝わらず、「内閣不信任案が停会による強権で阻止された」と勘違いした群衆は、外へ出てくる与党議員に対して石や下駄を投げ、ツバを吐き、乱暴をはたらいた。

午後三時、反政府の気炎をあげる政治デモは、いよいよ東京の中心部を舞台にした騒擾事件へと発展する――。

「政府の御用新聞をねらえ！」

興奮した群衆は、国会議事堂前から内幸町にある「都新聞」（現・「東京新聞」）を襲撃。続いて、「国民新聞」「報知新聞」「読売新聞」「二六新報」など政府系と目された新聞社、民衆運動を弾圧する警察署、交番を次々と襲って放火した。ちなみに、明治大学の学生だった大野伴睦（二二＝後に自民党副総裁）もデモに参加。「都新聞」前でアジ演説をブッていた。

この「桂内閣打倒騒擾事件」は大阪、神戸、京都、広島など全国に波及し、一連の事件によって二四三人が検挙される。そのうち最も多くを占めたのは職工と学生だった。

二月一一日、桂内閣は前年一二月二一日の成立以来、わずか五五日目に総辞職。民衆運動の高揚に押されて、短命内閣のレコードが書き換えられたのだった。

そもそも、この事件は前年の陸軍の「二個師団増設問題」に端を発していた。

日露戦争後の景気低迷などで"緊縮財政"と"行政整理"を公約していた当時の政友会・西園寺内閣は、陸軍が要求する二個師団増設案を大正元年の一一月に否決。それに反発した陸軍首脳は辞職した上原勇作陸軍大臣の後任を出さず、↖

▲停会明けの2月10日朝、日比谷図書館前の通りは、大群衆により交通が遮断された。騎馬巡査、警察官が出動し、午後になって群衆との間で衝突が起こる。「写真タイムス」

西園寺内閣は大正元年一二月五日に総辞職を余儀なくされていた。

「背景には、政友会に代表される議会勢力と、陸軍に代表される藩閥官僚勢力の対立がありました。次第に強くなる議会勢力を危惧した藩閥勢力が、増師問題を楯に巻き返しをはかったわけで、一般民衆にすれば、藩閥勢力は軍備拡張を増税でやるのかと不満をつのらせたのです」

と分析するのは、『大正デモクラシーの群像』の著者、京都橘女子大学教授の松尾尊兊氏である。

元老政治、藩閥勢力に「ノー！」と言った庶民

瓦解した西園寺内閣の後に誕生したのが、"藩閥の申し子"たる第三次桂内閣である。ところが、桂は宮中で天皇を補佐する内大臣という要職についていた。元老に推薦されたからとはいえ、内大臣の辞令の墨書も乾かないうちに政界へ復帰したと、轟々の非難をあびた。

一方、西園寺内閣が総辞職すると、政友会はそのいきさつを発表。増師反対の主張は、「藩閥打破」の叫び、不況に苦しむ民衆の憤激と結びついて第一次護憲運動に発展することになる。特に、一二月一四日、福沢諭吉が創設した社交クラブ「交詢社」の有志（代議士の菊池武徳、大阪朝日新聞の本多精一など）が仕掛け人となり、大物政治家の尾崎行雄（当時・五四歳）と犬養毅（当時・五七歳）をかつぎ出して「憲政擁護会」の設置が決定すると、枯れ野に火をつけるような勢いで、第一次護憲運動は全国に広がった。

大正元年一二月一九日、東京・歌舞伎座で開催された「第一回憲政擁護大会」は、著名人の演説を聞くために午前一〇時から押し寄せた聴衆で大入り満員だった（入場料二〇銭）。この日、尾崎と犬養が登場すると、

「よっ、憲政の神サマ！」

聴衆が気勢をあげる。監視役の警視を、

「神サマに失礼だぞ。脱帽しろ」

と叱咤する腹巻姿の労働者もいた。

そして高揚する第一次護憲運動の新たな主役に躍り出たのは、一般庶民である。

国力増強の名のもと、日露戦争後の慢性的不況や、重税（戦争中の非常特別税は、塩専売や酒税の増徴に繰りこまれていた）などの抑圧に耐えてきた民衆は、憤懣の絶好のはけ口とばかり、第三次桂内閣と、背後にある軍閥に怒りの矛先を向けた。

こうした中で起きたのが、"明治憲法のもとで民衆運動が内閣を倒した唯一のケース"と言われる「大正政変」だった。

「『大正政変』は、第一次護憲運動の高揚により、藩閥官僚勢力を弱め議会勢力を前進させる、政治の民主化という成果をもたらしました。さらにそれは、民衆の政治意識を覚醒させ、市民的自由を求める声となって全国に広がったのです」（前出・松尾氏）

大正二年二月二〇日、政友会が旧勢力と妥協した結果、新たに政権についたのは、"薩派の海軍の長老"と言われる山本権兵衛（六〇）だった。しかし、山本内閣は、初期大正デモクラシーの潮流の中で、より熾烈な税廃止運動や倒閣運動にさらされることになる。

▲護憲運動の花形、立憲国民党の犬養毅（左）と政友会の尾崎行雄（右）。二人は「憲政二柱の神」と呼びはやされた。

日録20世紀1913 7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▶**第1回富士登山競走（7月25日）**時事新報社が主催。近衛歩兵軍曹、鉄道院官吏ら健脚自慢の選手二十余人が、午前4時出発、優勝者は11時にゴールした。写真は頂上での記念撮影。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲**有栖川宮が崩御（7月10日）**52歳。宮家のひとつが継嗣なく、とだえた。翌日から3日間と、17日の国葬当日は、歌舞音曲停止。浅草興行街も喪に服した。

◀**京都帝大「澤柳事件」起こる（7月12日）**総長・澤柳政太郎（48、写真）が7教授に辞任を求め教授会と対立。翌年、奥田文相が初めて教授会の任免権を承認し解決。

「写真タイムス」

▲**明治天皇1年祭を挙行（7月30日）**宮中と桃山御陵で祭式執行。各地で遥拝式が行われ、東京では、青山練兵場に数万の市民が入場した。写真は宮中へ参内の大臣ら。

「写真タイムス」

▲**最短時間めざす世界一周旅行（7月24日）**従来の40日間を破るべく、メイヤーズが1時間平均36キロで移動中、あわただしく日本滞在。写真は新橋駅で。35日間で米国帰還、みごと記録を達成した。

▶**芸術座が発足（7月8日）**文芸協会を脱退した島村抱月（42、前列右から4人目）・松井須磨子（26、その右）らが参加。抱月脚本・須磨子主演で「大衆の新劇」をめざし、「サロメ」「復活」などをヒットさせた。

毎日新聞社

大正2年7月

1（火）●小林一三、宝塚唱歌隊を結成。
●銚子無線電信局、標準時報の自動送出を開始。

2（水）●東京・向島署、丁半賭博で三二人を逮捕。

3（木）●行政整理で文系大学生の就職深刻、と新聞に。

4（金）●吉野作造、三年間の欧米留学終え帰国。

5（土）●友愛会が会則を改正し、女子の入会を認める。

6（日）●東京・築地本願寺で全国在監死亡者追悼会。

7（月）●群馬県伊香保で榛名湖の水争い、堰を破る。

8（火）●坪内逍遙、島村抱月らの文芸協会が解散し芸術座、無名会、舞台協会を結成。

9（水）●警視庁、警察犬二頭の初の実地公開訓練実施。

10（木）●内務省、仙台、長野、岡山、高松、佐賀の各市上水道建設用の起債を認可。

11（金）●大審院、警察犯処罰令違反につき、司法権には実質的違憲立法審査権なしと判決。

12（土）●江西省が独立を宣言、中国第二革命始まる（15日、革命派の軍隊が南京占領）。
●京都帝大総長・澤柳政太郎が七教授に辞職を要求（13日、教授会が反発。京大澤柳事件）。

13（日）●政府、「清国」の呼称を、「支那共和国」に改称。

14（月）●東京電灯と合併した日本電灯が開業。

15（火）●米国、労働争議調停・和解・仲裁法を制定。

16（水）●小学校令改正。教員の免許状を府県で授与。

17（木）●東京で有栖川威仁親王の国葬を執行。

18（金）●女性の前髪を七・三に分ける夏向け髪型が流行、生え際のよくない人にも好評、と新聞に。

19（土）●北陸本線能生―梶屋敷間土砂崩れで列車埋没。

20（日）●松竹の女優試験に東京だけで八三人が応募。

21（月）●エジプト政府、新選挙制と立憲制を採用。

22（火）●中華民国留学生大会、袁総統に辞職勧告。

23（水）●軍艦「須磨」、上海居留民保護のため佐世保を出港（27日、陸戦隊五〇人上陸）。

24（木）●京都の三七歳の警察官、恋の恨みから就寝中の関係者七人に次々とサーベルで切りつける。

25（金）●鈴木三重吉「桑の実」、「国民新聞」で連載開始。
●時事新報社、第一回富士登山競走を行う。

26（土）●文部省、通俗図書認定規程、幻灯映画・活動写真認定規程を公布し認定制を強化。

27（日）●三井鉱山田川炭坑、休業日の月四回制を実施。

28（月）●奈良県、史跡勝地調査会を設置。

29（火）●南京の革命派軍が袁世凱に呼応し、形勢逆転。

30（水）●宮中と桃山陵で明治天皇一年祭を執行。

31（木）●宇治川電気㈱、宇治発電所竣工（8月京都、10月大阪に送電開始）。

証言・あの日この日
芥川龍之介（21）

8月12日（火）　〈今月末迄止るつもりなれど気が変ればもつと早くかへるかもしれず候／新聞によれば千里眼問題再燃の由本屋にたのみやりし福来博士の新著も待遠しく田舎の新聞が同問題の記事を少ししか出さぬが歯がゆく候〉（芥川龍之介『芥川龍之介全集』第７巻）

東京帝大英文科に進学したばかりの芥川は、この頃、静岡県江尻に滞在し、読書と海水浴の日々をすごしていた。芥川が関心を示している「千里眼問題」とは、明治43年東京帝大助教授・福来友吉が、超能力（透視や念写）を持つという御船千鶴子や長尾いく子の能力実験を行った事件。この実験で科学者たちの見解は対立。しかし世間から「手品」「詐術」との批判をあび、女性二人はともに急死（自殺と病死）。事件は一時沈静化するが、この年再燃、10月、福来は大学から追放された。（山崎行太郎）

「写真タイムス」

▲**暴風雨、東京を襲う（8月27日）**伊豆半島に上陸した台風の影響で、午前3時頃から市内各所で河川が氾濫した。さらに北上し、東北・北海道で死者64人を出すなど、大きな被害を与えた。写真は、危険水位となった江戸川。

「写真タイムス」

▲**ブース大将追悼会（8月20日）**救世軍創設者が逝って1年。東京・神田橋の和強楽堂で、日本司令官の山室軍平大佐（40、壇上）ら多数が参列、故人をしのんだ。救世軍は明治28年に伝来、廃娼運動、社会鍋などで知られる軍隊組織のプロテスタント。

▶**東京の「芝・二本榎惨殺事件」解決（8月13日）**前年11月の一家3人殺し、4年前の一家5人殺しとも、近在の鳶職（26）の凶行と判明、検挙された。

▶**建築進む三越本店（8月20日）**明治44年に着工した、東京の三越呉服店本店新館が、屋上の工事（写真）に移った。設計は鉄骨鉄筋技術を導入し、帝国劇場などを手がけた横河民輔（48）。この頃から、各地で鉄筋コンクリート建築が本格化した。

毎日新聞社

「写真タイムス」

▲**歩・工・砲兵連合演習（8月8日）**東京・赤羽で実施。飛行機で「戦場」の堡塁の位置を確認、報告筒を落とす偵察飛行など、実戦ながら。写真は埼玉・川口近くの荒川で行われた、工兵による架橋演習。

大正2年8月

1（金）●天竜川橋梁の複線工事が完成、東海道本線が全線複線になる（10月1日、新ダイヤ実施）。

2（土）●騎馬での富士山登山をくわだて、二人が成功。

3（日）●洋風三階建ての神戸・三井物産支店が全焼。

4（月）●日比谷図書館、児童に本の貸し出しを決定。

5（火）●岩波茂雄、東京で岩波書店を開業。

6（水）●米国人のジョン・メイヤーズ、船と汽車で世界一周の最短新記録、三五日二一時間三五分。

7（木）●仏、三年兵役制復活の陸軍強化法案を制定。

8（金）●孫文、中国第二革命蜂起に失敗し日本に亡命。

9（土）●欧州の演劇視察から小山内薫が帰国。

10（日）●南米は農業、南方はゴム業と二地域の渡航者増加し、北米とカナダは減少、と新聞に。

11（月）●対中国投資の仲介機関・中国興業（総裁・孫文）が日・中折半の出資で設立される。

12（火）●石川島造船所で日本初の水上艇建造と新聞に。

13（水）●オリエント急行が二五周年を祝う。

14（木）●大阪商船の「地久丸」が車軸を折り室戸岬沖で漂流（15日、軍艦「利根」を派遣して救助）。

15（金）●銃砲火薬商の火薬貯蔵庫建設に反対する神田の住民が警視庁に押しかけ談判。

16（土）●フォード社、流れ作業の組み立てライン完成。
●英・ヴィッカース社に発注した最後の外国製巡洋戦艦「金剛」竣工、同社で受領式挙行。
●東北帝大に女子三人合格。帝大初の女子学生。

17（日）●富士山大宮口の強力らが山頂で相撲大会。

18（月）●熊本、博多など九社合併し、西部瓦斯㈱設立。

19（火）●天然痘流行の東京・本郷などで強制種痘実施。

20（水）●関西の重罪懲役囚四〇〇人、北海道へ護送。

21（木）●東京に大正製薬所（現・大正製薬）設立。

22（金）●大阪電灯㈱、料金の大幅値下げ決定。

23（土）●名古屋・新田遊廓移転の疑獄発覚（9月、安東衆院議員、加藤前名古屋市長ら勾引）。

24（日）●漁船でマニラに売られた七人の女性が帰国。

25（月）●東京で知的障害児童の林間授業開始と新聞に。

26（火）●大日本平和協会、日米親交の意見交換会開催。

27（水）●木曾駒ケ岳に集団登山の長野県中箕輪村小学校、天候急変のため校長、生徒ら一一人凍死。

28（木）●関東から北海道にかけ大型台風襲来、大雨により死者六四人、農作物の被害甚大。

29（金）●警視庁、浅草の映画館に幕間実演劇禁止令。

30（土）●横浜の生糸相場奔騰、市場開設以来の最高値（9月から低下、12月には四割に暴落）。

31（日）●田沢昌言考案の切手（図案公募切手）発行。

毎日新聞社

▲**仙台で松島公園記念大会(9月23日)**瑞巌寺、観瀾亭、五大堂などの史跡を公園に編入して10年目、盛大な祭典を繰り広げ、内外記者団を招いて宣伝につとめた。

「写真五十年史」

▼**乃木大将1年祭(9月13日)**明治天皇崩御後殉死した大将をしのび、赤坂の邸宅に参詣者が詰めかけ、「乃木寿司」「乃木団子」まで出るにぎわいだった。写真は邸内での祭典。

「太陽」

▲**「天下の義人」田中正造逝く(9月4日)**明治24年来、足尾銅山鉱毒被害を追及、操業停止を訴え続けたが、はたせなかった。71歳。写真は谷中村の葬儀。

▲**澤田正二郎(21)、旗揚げ公演(9月19日)**芸術座の東京・有楽座公演に参加、「モンナ・ヴァンナ」で松井須磨子と共演。12月には「サロメ」で絶賛を博した。

▶**鎌倉にコッホ記念碑(9月14日)**門下四天王の北里柴三郎(左端)ら有志が発起、明治38年に来日した折に滞在した、稲村ケ崎・極楽寺近くに建った。

「写真タイムス」

▶**中国政府、謝罪(9月28日)**国民党革命軍を破り、南京を占領した際、日本人商店を襲い、日本人3人を殺害したため問題化。写真は日本領事館に向け整列、謝罪する張勲の軍隊。袁政権はなお、犯人の処刑に加え、賠償金64万元を支払わされた。
「写真タイムス」

大正2年9月

1(月)●袁世凱軍が南京を占領し、中国第二革命失敗。袁軍の日本人殺害事件が起こる(南京事件)。
●東京女子高等美髪学校が開校式。
2(火)●岡倉天心、新潟県の別邸で死去。五〇歳。
3(水)●米国の棉作不良で価格が前年の三倍に暴騰。日本の紡績業者は買い付けに失敗。
4(木)●東京にチフス流行、なお増加傾向、と新聞に。
5(金)●外務省政務局長・阿部守太郎、対中「軟弱外交」の張本人として自宅前で刺される(6日死亡)。
6(土)●京都の香具墨筆商・鳩居堂が全焼。
7(日)●東京で対中問題国民大会、即時出兵を決議。
●独・伊・オーストリア三国同盟、ポーランドのシュレジエンで共同軍事訓練。
8(月)●台風で不通の奥羽本線が開通し鉄道全線復旧。
9(火)●阿部局長刺殺犯の一人、岡田満が割腹自殺。
10(水)●駐中公使が南京事件など抗議(28日中国謝罪)。
11(木)●京奉線昌黎停車場で日中両軍の兵が衝突。
12(金)●中里介山の「大菩薩峠」、「都新聞」で連載開始。
13(土)●横浜正金銀行頭取に井上準之助が就任。
14(日)●富山市で富直線(富山―直江津)開通祝賀会。
15(月)●満月の皆既月食も、曇天のため観測できず。
16(火)●女優・森律子、欧州劇壇見学の旅から帰国。
17(水)●農商省、農家副業に羊の飼育奨励を決定。
18(木)●前警保局長・古賀廉造らによる広東紙幣一〇〇万円偽造事件の第一回公判(10月有罪判決)。
19(金)●文部省、医師・歯科医師・薬剤師それぞれの試験規則を公布。受験資格を厳格化。
20(土)●北海道のイカ漁船一五〇隻、強風で行方不明。
21(日)●東京・神田で開催の「千里眼養成」実験講習会に四百余人参加。実験はすべて失敗し散会。
22(月)●ラッコ、セイウチの皮を商人に委託して売却できるとの勅令を公布。
23(火)●仏人のギャロスが単葉機で地中海を初横断。
24(水)●冷夏と台風で北海道九割、青森八割、東北各県三~五割減収の大凶作と農商省稲作予想。
25(木)●朝鮮総督府、陸海軍刑法・陸海軍軍法会議法・戒厳令・軍機保護法を施行。
26(金)●大日本体育協会が規約改正。体育の中心的統制団体と明示し、日本五輪委も兼ねると規定。
27(土)●僻地の小学教員に特別加俸を給す勅令公布。
28(日)●長崎県の島原鉄道が全通、営業を開始。
29(月)●ブルガリアとトルコが講和条約に調印。
30(火)●徳島県東山鉱山で、賃上げを要求し作業員千余人がスト。指導部解雇で暴動化。

「写真タイムス」

▲**外務省政務局長・阿部守太郎刺殺される(9月5日)**東京・赤坂の自宅に帰る途中襲われた。40歳。犯人の一人、岡田満(18)は「南京事件」への政府の「弱腰」に憤慨していた。9日、岡田は割腹自殺した。

◀**四谷見附橋が完成(10月5日)**麹町10丁目と四谷尾張町を連結。長さ約36、幅約22メートル。午前10時から開橋式が行われ、選ばれた維新前・明治・大正生まれの3組の夫婦が渡った後、写真のように大群衆が先を争った。

▼**「大成丸」世界一周を達成(10月16日)**商船学校練習船、2287トンの帆船が前年7月出発以来、約6万キロを航海、出発地の館山湾に帰着した。写真は同船と出迎えの船。

「日活五十年史」

▲**日活の向島撮影所オープン(10月)**前年設立の日本活動写真株式会社が、隅田川河畔に河浦謙一・吉本敬之設計で、約100坪の東洋一を誇るグラス・ステージを完成(写真)。撮影機材も最新式を設置し、震災まで現代劇を量産した。

◀**横浜で勧業共進会開催(10月1日)**神奈川県と市が共催し、翌月19日まで実施。石膏製の横浜市街立体縮尺図、東京・小西商店の即席写真機、犬の胎児などを展示。開会式には大園遊会を催し、模擬店も出て、大いににぎわった。
「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲**カーディフ炭鉱で420人死亡(10月14日)**作業中に爆発が起こり、生き埋め。カーディフは、イギリス連合王国ウェールズの首都。産業革命を担った英国最大の炭鉱だった。

大正2年10月

1(水)●秋田鉱山専門学校が開校(15日、上田蚕糸専門学校が開校)。
2(木)●阿部局長殺害事件の記事差し止め命令に違反した新聞一八社の初公判(11月罰金の判決)。
3(金)●米国で奢侈品をのぞき、関税率を平均二七%に引き下げるアンダーウッド関税法成立。
4(土)●梅原龍三郎滞欧作品展を開催。百余点出品。
5(日)●天皇・皇后、高輪御殿で活動写真を観覧。
6(月)●政府、中華民国承認。英独など一二カ国も。
7(火)●日本実業協会(会長・渋沢栄一)創立。
8(水)●日本オランダ通商航海条約を締結。
9(木)●逓信省、公衆無線電報の船舶中継を実施。
10(金)●パナマ運河が貫通(11月18日、第一船通過)。
●袁世凱、中華民国大総統に就任(11月4日、第一党の国民党に解散命令。国会解体へ)。
11(土)●台湾で中国革命運動に呼応の抗日独立蜂起計画が発覚し、二七〇人検挙(台湾独立事件)。
12(日)●初の色彩短編「日本の風景」を浅草で封切。
13(月)●インドでチベット独立めぐり中・英・チベット会談。袁世凱が外チベットの自治を承認。
14(火)●灘の酒造家総会、防腐剤使用期限延期を決議。
15(水)●農商務省、工芸奨励のための第一回図案および応用作品展を開く。
●斎藤茂吉、歌集『赤光』を刊行。
16(木)●カナダの各州で日本人経営の商店での白人女性雇用禁止法制定の動きが活発、と新聞に。
17(金)●北陸本線東岩瀬駅で列車衝突、死者二四人。
18(土)●東京大正博覧会創立総会、翌年開催を決定。
19(日)●上野の文展に入場者一万二〇〇〇人の盛況。
20(月)●神奈川県鶴見の総持寺で大梵鐘鋳造式。
21(火)●有価証券五三万円窃取の細川侯爵家従ら逮捕。
22(水)●横浜のペスト患者、ついに一〇人目。
23(木)●帝国ホテルでオペラ歌手・シルバ夫人独唱会。
24(金)●ウエルタ・メキシコ大統領、米の内政干渉拒否。
25(土)●国家医学会例会で石原修が「女工と結核」と題し、苛酷な労働と結核の関係について講演。
26(日)●東京で出獄人保護の「免囚保護自立会」発足。
27(月)●ウィルソン米大統領、東欧情勢で「征服による領土拡張を求めない」と演説。
28(火)●独・トルコ軍事協定成立。
29(水)●「三多摩黒装束組」を名乗る強盗団一三人検挙。
30(木)●芸術座第一回音楽会で、北原白秋作詞「城ケ島の雨」が作曲家・梁田貞によって発表される。
31(金)●朝鮮総督府、府制交布。日本居留民団法撤廃。

「写真タイムス」

▲堀部安兵衛の碑完成（11月3日）舅の決闘を助け、赤穂浪士参加の契機となった東京・高田馬場に、先祖が安兵衛と近づきだったという土地所有者らが建設した。

「写真タイムス」

▲最後の将軍・徳川慶喜逝く（11月22日）東京・小石川の自邸で風邪のため静養中、肺炎を併発。写真は30日、上野・寛永寺での葬儀。旧臣ら数千人が見送った。76歳。晩年は写真撮影や旅行を楽しみにした。

「写真タイムス」

▲日本初の野外劇開催（11月1日）井上正夫（32、左）ら新時代劇協会が、薄暮の東京・田端の白梅園に集まった観客約150人に、泉鏡花作「紅玉」を演じて見せた。

「歴史写真」

▲東清鉄道・満鉄連絡会議（11月4日）イェンチエン、中村是公両総裁が長春のヤマトホテルで会談。翌年1月、鉄道院は両線などを介した欧州貨物連絡運輸を始めた。

▶大正天皇、陸軍特別演習で名古屋行幸（11月12日）名古屋東南郊外・八事山上で、濃尾の野に展開する東西軍の戦いを統監した。写真は、名古屋駅前の奉迎門を通る天皇。

「写真タイムス」

▲英国から巡洋戦艦「金剛」回航（11月5日）約2万7500トン、36センチ砲8門搭載の快速巨艦が、横須賀に入港。英・ヴィッカース社製。最後の外国製主力艦だった。

大正2年11月

1（土）●井上正夫ら東京で初の野外劇「紅玉」を上演。
●大日本体育協会主催の第一回陸上競技選手権大会を、東京の陸軍戸山学校で開催。
●米国で初のガソリンスタンド開業。

2（日）●長野県生糸同業組合連、糸価低落のため一日二時間の操短を決議（12月19日から一斉休業）。

3（月）●青森県議会、凶作救済で一〇〇万円起債可決。

4（火）●閣議、緊縮厳守の次年度予算方針を決定。師団増設・海軍拡張・治水港湾費増額は認めず。

5（水）●外モンゴルに関する露中宣言。露は中国の宗主権を認め、中国は外モンゴルの自治を承認。
●英より回航の巡洋艦「金剛」、横須賀に入港。

6（木）●ガンジー、南ア政府のアジア人差別反対の非暴力抵抗運動を行ったため南アで逮捕される。

7（金）●モスリン連合会、生産過剰で三割操短を決議。

8（土）●神奈川県、横浜市申請の小選区制市会議員選挙を廃し、全市一区の大選挙区制案を不許可。

9（日）●京都で真宗大谷大の落成式（26日豊島師範も）。

10（月）●東京市電気局、芝浦の民家約一〇〇軒を市電車庫拡張のため強制立ち退き実施。

11（火）●横浜正金銀行、青島出張所を開設。

12（水）●宮城県、凶作のため仙台の共進会中止を決定。

13（木）●名古屋で飛行機二機参加の陸軍大演習。

14（金）●法務省法律取調委員総会、戸籍法改正を審議。

15（土）●トルコ、独将軍を首都第一軍団司令官に任命。

16（日）●プルースト、『失われた時を求めて』自費出版。

17（月）●大日本国防義会を結成（中野武営ら主唱）。

18（火）●満鉄、前年比三五〇万円増収で好調と新聞に。

19（水）●三井鉱山、田川鉱に夜学会（徒弟学校）開設。

20（木）●メキシコの居留民保護のため戦艦「出雲」派遣。

21（金）●露の裁判所、トルストイの原稿破棄を命令。

22（土）●最後の将軍・徳川慶喜が死去。七六歳。

23（日）●ダーウィン会、東京帝大で進化論講演会開催。

24（月）●八王子の織物問屋・向山忠次郎商店が破綻し、八王子や山梨県下の機業界が混乱する。

25（火）●鉄道院、凶作地の貨物運賃割引を実施。
●大阪・弘済会、市内五ヵ所に保育所を設置。

26（水）●門司築港鉄道、小湊鉄道など四軽便鉄道認可。

27（木）●逗子開成中学校の全教員辞職、と新聞に。

28（金）●丹後の機業界不振のため、最盛期に一日六〇銭の賃金が一〇銭に値下がり、と新聞に。

29（土）●東京美術学校編『法隆寺大鏡』の刊行始まる。

30（日）●英、対トルコ協定により、アラビア、シリア、メソポタミア全域で石油採掘権を獲得。

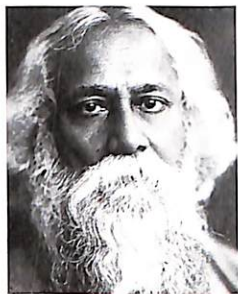
「写真タイムス」

▲英国大使館が慈善夜会（12月16日）東京・帝国ホテルを会場に、会費一人5円で歳末舞踏会を開催。誰でも入場できたため満員の盛況だった。寄金は、明治23年、英国人の女性宗教家・リデルが熊本に開設した、ハンセン病の療養所・回春院に贈られた。

◀米大リーグ強し（12月7日）世界一周中のジャイアンツとホワイトソックスが来日。混成軍が東京・三田の慶応グラウンドで慶大と対戦した。猛打の前に、さすがの慶大も形なし。16対3で惨敗した。写真は試合前、ホ軍・スカットと慶大・菅瀬両投手の握手。

▼東北・北海道が大凶作（11月）夏の異常低温のうえ、8月末には台風に見舞われた。東北各県は平均3～5割、北海道は9割の減収で、救済を要する人は935万人と報告された。写真は、1割5分作だった青森・三戸の農家。

毎日新聞社

▶タゴール（52）がアジア初のノーベル賞（12月10日）インドのベンガル語で書かれた『ギタンジャリ』という宗教色の強い詩集が、文学賞の対象となった。受賞後の第一声は「なぜ、お集まりかな？」だった。

ユニフォト・プレス

「写真タイムス」

▲新兵の入営日（12月1日）3月、陸軍は精神教育を強調する「軍隊教育令」を発布、日露戦争後の部隊教育徹底をめざした。この日、各連隊は新教育体制下で初の入営日。写真は近衛連隊新兵の夕食。

◀戦艦「榛名」進水（12月14日）神戸・川崎造船所で建造。海軍の民間育成方針にそって建造された「霧島」（1日進水）に次ぐ主力艦。約2万7500トン。昭和20年、江田島沖で擱座した。

大正2年12月

1（月）●巡洋艦「霧島」進水（14日、「榛名」進水）。
●ウラジオストクに日本小学校開校。

2（火）●澤田正二郎、松井須磨子、「サロメ」初演。

3（水）●逓信省、東京駅前に中央郵便局設置を決定。

4（木）●台湾・苗栗臨時法院、台湾独立事件に判決。死刑二〇人、懲役二八五人。

5（金）●独の青年ボクサーが相撲志願、と新聞に。

6（土）●帝劇で「物言う不思議の活動・キネトフォン」が初公開され、大評判となる。

7（日）●五日に来日の、世界一周米大リーグ二チーム、三田の慶応グラウンドで模範試合。

8（月）●政府、凶作・水害の東北に融資六〇〇万円決定。

9（火）●八田貯蓄銀行が破綻し、広島の銀行界混乱。

10（水）●インドのタゴール、ノーベル文学賞を受賞。
●朝日新聞社『朝日年鑑』創刊（初の新聞年鑑）。

11（木）●京都法政大学、立命館大学と改称。

12（金）●市ケ谷監獄の大雑居房で、個人的処遇として金網を張った鳥籠式の洋式寝台を使用。

13（土）●二年前盗難にあった名画「モナ・リザ」が戻る。

14（日）●東京の在庫調べで前年比二割増の二三〇〇万円。砂糖、織物多く不況ものがたると新聞に。

15（月）●改築が終わった正倉院の工事落成を上奏。

16（火）●農商務省、輸入植物の取締り法制定を決定。

17（水）●翌年度鉄道事業予算、四二五〇万円に確定。

18（木）●不景気で繁華街に空き家目立つ、と新聞に。

19（金）●宮内省、井の頭など皇室領地の下賜を発表。
●花井卓蔵らの亦楽会と尾崎行雄らの政友倶楽部が合同し新党結成（24日、中正会と命名）。

20（土）●台湾縦貫鉄道が完成する。

21（日）●米国のアーサー・ウィン考案のクロスワードパズルが初めて新聞の日曜版に掲載される。

22（月）●明治神宮創建のための神社奉祀調査会発足。

23（火）●立憲同志会、結党式（総裁・加藤高明）。
●大阪の住友家が救済事業を長屋建設から、需要増大の職工育成学校設立に変更、と新聞に。
●米で連邦準備銀行法発効。金融恐慌が教訓。

24（水）●樺太工業設立（昭和8年、王子製紙へ合併）。

25（木）●奈良県三島に天理教本部神殿が完成。

26（金）●凶作による救済戸数は八万九五七と北海道庁。

27（土）●日本鋼管会社、継ぎ目なし鋼管の製造開始。

28（日）●朝鮮全羅北道警務部、弥勒山で「虎狩り」実施。

29（月）●歳末の特別警戒に非番警官も動員、と新聞に。

30（火）●経済不振のため旅客が前年比一割減と鉄道院。

31（水）●益田孝、三井合名を引退し相談役に就任。

俄楽多市

流行語
“おいこら巡査”への皮肉

「もしもし」。この年三月、これまで市民を「おいおい」とか「こら」と呼びとめていた警察官の言葉づかいが、「もしもし」とソフトに語りかけるよう改められた。といっても、長年の習慣は簡単には変えられない。それへの皮肉をこめて、会話の中でわざと「もしもし」を乱発することが流行した。子どももたちまでマネをした。

「ビリケン」。ビリケンは、二年前にアメリカから伝えられた福の神だが、頭でっかちで見た目が悪かった。このため最初こそ歓迎されたものの、この年にはカッコ悪い、古くさいなどマイナス・イメージの象徴として使われた。たとえば、「ビリケン行為」と言えば野蛮なふるまい、「ビリケン髪」はヤボな日本髪を意味した。

「阿呆陀羅経」。この年、「さてもないない、ない物は」と歌う「阿呆陀羅経」が流行した。これが転じて、夫婦が連れ合いのことを他人に語る時、「うちの阿呆陀羅経が」と言うのが広まった。夫に対しては甲斐性なしという意味、妻には気がきかないという意味をこめたもの。

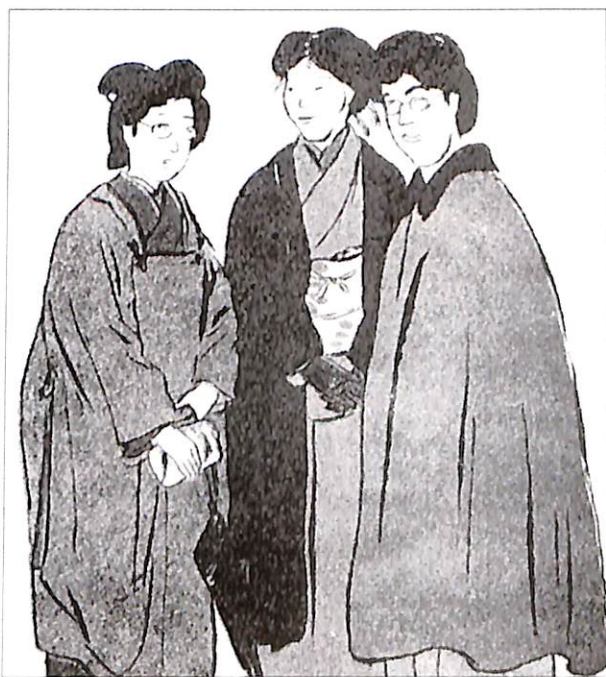
▲1月、東京・大阪では憲政擁護第2回大会が開催され、政治の嵐が吹き荒れたが、子どもたちは日比谷公園でのんびり凧上げ。

「写真タイムス」

流行
東京で結婚式をあげ帰郷の旅が新婚旅行

最近の結婚式の内情について、式が一番多く行われる日比谷大神宮に聞いた。同神宮の式料は、特別一等五〇円から一二円まで六種に区分されているが、特別一等は有数の華族か大富豪に限られ、年に数えるほどしかない。申し込みの最も多いのは三五円から二〇円までの間で、中でも実業家の家庭は三五円を選んでいる。

近頃、新婚旅行の多いことは非常のもので、東京近県の千葉、埼玉、茨城、栃木、山梨、神奈川では東京へ来て、同神宮で式をあげ、新婚旅行として引き返す形が大流行している。最近は、京都、大阪の人が、わざわざ東京へ来て戻る例もふえてきた。

（「時事新報」一一月五日）

▲馬シリーズで知られ、昭和31年文化勲章を受章した洋画家、坂本繁二郎の筆になる1コマ漫画。題して「自覚せる新しい女」。「楽天パック」収録。

CM100年 ポスター「福助足袋」（福助足袋、現・福助）

▲北野恒富が描いた豪華美人画が、足袋業界のポスターに登場。話題を呼んだ。

食
ビーフステーキは簡便料理の代名詞

ビーフステーキは「ビフテキ」、または「ビステキ」と呼ばれ、大正二年頃には高級料理というより、料理の中でも最も簡単なものと考えられていた。赤堀峯吉の『実用西洋料理』の鉄架焼牛肉（ビフテキのこと）の項にも「これは料理の中で最も簡単で、何人の客にも直ちに応用ができます」と記述されている。

それは肉の質や焼き方は関係なく、安くて固い肉でも、ただ牛肉をバターで焼きさえすればいいと思われていたからである

（昭和女子大学食物学研究室編『近代日本食物史』）

三面記事
デモの女性に暴力沙汰

「写真タイムス」

▲3月29、30日の両日にわたって行われた、逓信省為替貯金局第6回事務競技会の模様。参観者は1500人を数えた。

【ワシントン発】婦人参政権運動を促進するため「全国女性党」を結成したアリス・ポール女史（二七）を先頭に、アメリカの婦人参政権論者五〇〇〇人が三月三日、ワシントンのペンシルベニア通りをデモ行進した。

しかし見物人の中の男たちが口々に野次を飛ばし、平手打ちを食わせ、ツバを吐きかけ、火のついたタバコを押しつけるなどして妨害したため、デモはホワイト・ハウスまでたどり着くことができず、四〇人が病院に収容された。ついにはフォート・マイヤーズから騎兵隊が動員されて、混乱はようやく収拾された。

（J・トレーガー『トピックス&エピソード世界史大年表』）

怪奇
食事は毎日豆腐だけ神様がついている男

大正二年七月二三日午後六時半頃、東京・麻布区新広尾町の木賃宿「岡本屋」に泊まっているアメ行商人の伴喜平（三六）が、芝区本芝入横町で、突然狂犬に右の足を噛まれた。騒ぎで駆けつけた警官がただちに狂犬を撲殺するとともに、喜平を伝染病研究所に連れていき、治療をほどこそうとしたが、「私には神様がついていて、その加護を受けているので注射など必要ない」と言ってきかない。それでも無理やり連れていって、一応の治療を受けさせた。

ところで喜平の言う神様だが、この木賃宿の主人などによると、この男は平常、米の飯というものをまったく食べず、毎日豆腐五丁ずつを常食として、病気ひとつせず元気に働いている。このため、「自分には神様がついている」と語っていたという。

（富岡直方『明治猟奇史』）

レジャー
教育に悪影響を与える活動写真館の増設不可

活動写真の流行は、ほとんどその絶頂に達し、東京市内で興行する活動写真館は浅草六区内の一二館をはじめとして四三館に達する。これに郡部の四館を合算すると、東京府下には四七館の常設館がある。二月には三五館だったから、五ヵ月の間に、一二館も増加したわけである。

しかもこれにとどまらず、目下、警視庁に新設の届けが出ているだけで、京橋で五館、神田、芝でそれぞれ三館と、合計一七館を数える。保安部ではこれを許可するかどうか詮議中であったが、このほどいっさい認めないという方針を決定した。「これ以上の増設は小学生などに与える悪影響が、あまりに大きくなりすぎる」という理由によるものである。

（「東京日日新聞」七月八日）

◀一二月二五日、明治屋東京支店で舞台俳優を集めてクリスマス会が催された。

この年の初もの
銀座千疋屋の新機軸フルーツ・パーラー

●犬の訓練学校　ドイツ帰りの田丸亭之助が神戸で開校。

●セルロイド人形　国産初のセルロイド人形を、東京の永峰清次郎が完成。

●道路地図　フランスのタイヤ製造会社・ミシュランが、ドライブに適した道路地図を製作し、販売。アスファルト舗装、敷石など道路状況が中心。

●乳房造影法　ドイツの外科医A・サロメンが、胸部癌の診断のために開発。

はやり歌

早春賦

作詞 吉田一昌　作曲 中田章

春は名のみの風の寒さや
谷の鶯　歌は思えど
時にあらずと　声も立てず
時にあらずと　声も立てず
氷解け去り葦は角ぐむ
さては時ぞと　思うあやにく
今日もきのうも　雪の空
今日もきのうも　雪の空
春と聞かねば知らでありしを
聞けば急かるる　胸の思いを
いかにせよとの　この頃か
いかにせよとの　この頃か

▶この年二月に発行された「新作唱歌（三）」に収録された曲。女学生の人気を集めた。中田章は、「雪の降るまちを」などを作曲した中田喜直の父。

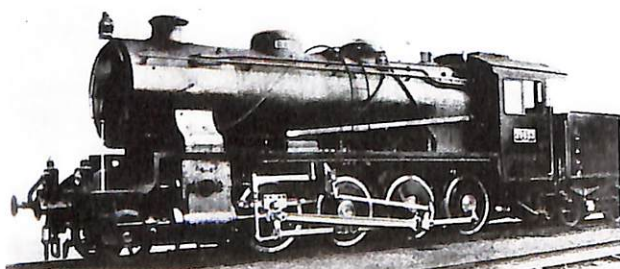
東京芸術大学蔵

城ケ島の雨

作詞 北原白秋　作曲 梁田貞

雨はふるふる　城ケ島の磯に
利休鼠の雨がふる
雨は真珠か　夜明けの霧か
それともわたしの忍び泣き
舟はゆくゆく通り矢のはなを
濡れて帆あげたぬしの舟
ええ　舟は櫓でやる
櫓は唄でやる
唄は船頭さんの心意気
雨はふるふる　日はうす曇る
舟はゆくゆく　帆がかすむ

三浦市提供

◀この年一〇月、芸術座の第一回音楽会で発表された作品。発表時のタイトルは「舟歌」で、舞台では作曲者自身が歌った。写真は、現在城ケ島にある歌碑。

▲9600形蒸気機関車。大正2年川崎車両で誕生、以後昭和16年までに796両製造され、貨物用標準形機関車となる。

世界の動き

大量生産で1台850ドルが600ドルに
第一歩は　デトロイトの「水晶宮」工場から
「T型フォード」コンベア組み立て稼動！

一九一三年四月一日、その五年前に「モデルT型」を開発し、自動車業界にセンセーションを巻き起こしたフォード社が、いよいよ本格的なコンベア組み立てラインの操業を開始した。それは、飛躍的なコストダウンによる大衆車時代の到来を告げる、画期的な生産方式であった。

▲デトロイトのT型フォードの工場。「モデルT型」のシャシーに、ボディを載せる作業をしている。

移動組み立て方式導入で大幅なコストダウンを実現

「私が価格を一ドル下げるたびに、一〇〇〇人の買い手が生まれるのだ」と豪語した、ヘンリー・フォード（四九）の信念が、現実のものになろうとしていた。四月一日、米国・デトロイトのハイランドパーク工場で、移動組み立ての生産ラインが稼動し始めたのだ。工場は、間口[illegible]メートル、奥行き六〇メートルの四階建てで、窓が大きく、「水晶宮」と呼ばれるほど内部は明るかった。

最初にこの方式が採用されたのは、フライホイール（はずみ車）マグネット発電機の組み立てであった。それまでの発電機は、一人の熟練工が部品を組み立て、一日九時間労働で三五～四〇個、一個当たり平均二〇分の時間を要していたが、新方式では、動くコンベアにそって二九人が並び、それぞれ別の作業を行うことで、一個当たりの組み立て時間はいっきょに一三分一〇秒に短縮された。その際、コンベアの速度は微妙に調整された。最初は一分間に一メートル五〇センチだったが速すぎた。次に一分間に四五センチにすると遅すぎ、結局、一分間一メートル一〇センチに落ち着いた。

その後もコンベアの高さなどに改良が加えられ、一個当たり五分にまで短縮、新方式導入前に比べ、四倍ものスピードアップが実現した。

この移動組み立て法は、モーターやトランスミッション（変速装置）にも次々と導入され、一九一四年一月にはシャシーの組み立てラインも完成した。それまでは一台のシャシーを完成するために必要な部品は、作業員の手で組み立て位置まで運ばれ、組み立て時間は一二時間二八分であったが、チェーンコンベア方式の実現で、一台一時間三三分にまで短縮されることになる。そして最終工程を終えて出て来る車は、一〇分に一台、二分に一台と間隔を縮め、二四秒に一台が生まれるスピードを記録。この新方式により部品からボディの完成まで、あらゆる工程が精密な時間管理の中で流れ、生産能率の向上と労務費の削減がもたらされたのである。

「移動組み立てというアイディアが先にあったのではありません。それは一九〇八年秋に発表した、標準大衆車『モデルT型』という自動車の生産コンセプトに起因しています。シンプルで無駄のない設計、製品の均一性と互換性を追求する過程で試行錯誤が繰り返された結果、必然的に生み出された方式だったのです」

こう語るのは、法政大学教授の下川浩一氏である。

フォード社は、この「モデルT型」第一号車を、一九〇八年の発売以来一八年間、唯一の基本モデル車として生産・販売した。車体のスタイルは幾種類かあるが、部品はできるだけ共有し、年式が違っても、ガソリンエンジン、タイヤ、ホイールベースは一貫して共通している。

生産台数は、一九〇八年に年間[illegible]〇九台だったものが、移動組み立てのラインがスタートした一九一三年には約二〇万台、一九一五年には約四[illegible]万台、と加速度的に増大し、一九二七年までに、延べ一五〇〇万七〇[illegible]台が製造された。

▲コンベア上で行われるモーターの組み立て。このシステムが生産の全工程に適用された。

▼みずから製作した第1号車に乗るヘンリー・フォード。復原して1904年頃撮影したもの。

▲1911年、ボディを木製から金属製に変えた「モデルT型」。

Popperfoto ユニフォトプレス

米紙特派員が見た旅順口攻略当時の“将軍”乃木

佐伯 修

「将軍は寡言自制の人、体格は日本人としてはやや大きな方であろう。髪は短く刈って、髭は黒かったが、戦塵濛々の今日このごろ著しく霜を加えてきた。皮膚は多年の出征と曝露（風雨にさらされること）生活のために、黒褐色の羊皮紙のようになっていた。双眼は深く点じて底ひもしれない色を湛え、非常に表情の変化に富んでいると、人間情緒の変幻極りなきにも等しかった」「将軍は決して服装を変えたことがない。白い綾織綿布の軍袴に、乗馬用の長靴の、それも攻囲戦の進展につれて、次第に灰色になったものを穿ち、黒色といってもよい程の濃紺の上衣の、袖に三つの星章と三本の線とをつけて、わずかに階級を示すのみであった。将軍が営舎から出て来ても、いつも沈思黙想の静かな姿で、ただ拍車の舗石に鳴る音と、軍刀の左側に曳かるる音のみであった」

明治三七年八月、乃木希典大将率いる日本陸軍第三軍は、旅順口のロシア軍陣地攻略を開始した。この作戦に従軍した約三〇人の外国人記者の中に、二六歳の「シカゴ・ニュース」特派員、スタンレー・ウォッシュバン（一八七八～一九五〇）もいた。右の引用は、それから八年後、明治天皇の死に殉じた乃木夫妻の死に動かされてウォッシュバンが執筆し、この年、米国で出版された『乃木』（目黒真澄訳『乃木大将と日本人』）からのもの。著者自身が間近に見た、旅順口攻略当時の乃木の風丰である。

ウォッシュバンはまた、乃木の眼が、民間人であるウォッシュバンたちに対する時と、部下の軍人に対する時では、「柔和な、慇懃な、極めて円満な眼」から「何の個性も感情もない、単なる戦争の機関としての軍人気質を暗示する」ものへと一瞬にして変化し、「ジーキル博士が、ハイド氏に変るよう」だとも述べている。

▲第1次大戦ではロシア軍に従軍した。

だが、この寡黙で、むしろ容易に本心を明かさず、何かに耐えているような乃木という軍人に、ウォッシュバンは人間味を感じ、強く魅かれた。彼は乃木の「ストイック的精神」をたたえ、彼を「古のスパルタ人」と呼んだ。また、「二〇三高地」の戦闘などで莫大な犠牲者を出した、旅順口攻略の責任者としての乃木に対しても、つらい立場にきわめて同情的だ。

さらに乃木の「殉死」についても、「将軍は、日本古来の理想主義の焔が、西洋文明との接触によって衰え来ったのを、あるいはこの殉死によって再び燃え立たしめることもできようと、胸中ひそかに思っていたかも知れぬ」と肯定的にとらえている。

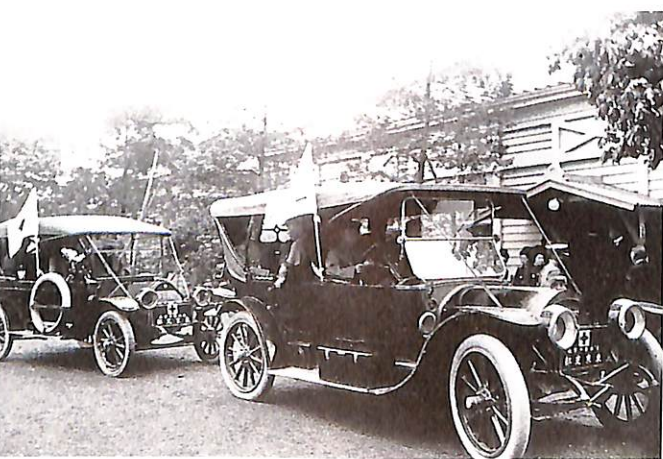
生産が伸びるにつれ、値段もどんどん安くなった。一九〇八年に一台が八五〇ドルで売り出されたものが、一三年には六〇〇ドル、二四年には二九〇ドルと発売時の三分の一強にまで下がったのだ。

“フォードシステム”があらゆる分野に波及

「モデルT型」の生みの親、ヘンリー・フォードは、一八六三年、デトロイト郊外のディアボーンにある農家に生まれた。アイルランド系移民の子、フォードの夢は、好きだった機械いじりで、荷馬車以外に交通手段がない農村の生活を向上させることだった。

やがて、フォードは村を離れ、発明王・エジソンが創業したエジソン電気会社に入社し、頭角を現していく。その後、技術を習得しながら二度の離職を体験し、一九〇三年六月、三九歳で、みずからの夢を実現、「フォード・モーター・カンパニー」を発足させた。それから、「モデルA型」に始まり「モデルN型」と、次々に新車を開発していったが、価格は一〇〇〇ドル以上もする高価なものだった。「農民に手が届く安い大衆車」というフォードの夢は、なかなか実現しなかった当時は、収益の高い高級車が優先されていたからだ。

創業から五年後、フォードは、ようやく、「モデルN型」を基礎にした標準大衆車「モデルT型」をデビューさせた。高級車の生産で習得した技術を取り入れることで、性能、品質、堅牢さを保証した大衆車の生産を可能にしたのである。

フォードシステムの画期的なところは、高嶺の花だった自動車のコストを下げ、農村の近代化に大きく貢献しただけではない。作業形態をも従来の方式とはまったく異なったものにした。

フォード自身が語った、「労働者は一歩以上動くべきではない」、「労働者は腰を曲げる必要はない」という考えを貫くことで、労力の無駄が省かれ、労働時間の短縮と交替制によって、従業員の労働条件も、向上することになったわけだ。

「フォードシステムは、自動車業界に限らず、その後一九二〇年代にアメリカで花開いた家電や鉄鋼、機械産業まであらゆる分野に波及し、世界的に見ても大量生産・大量販売への道を作りあげていった」（下川氏）のである。

ヘンリー・フォード（1863～1947）
農家に生まれ、一六歳で機械工に。一九〇三年、フォード社を設立。自動車の組み立てに大量生産方式を導入し、二四年に市場占有率五〇%を記録。

毎日新聞社
▶大正三年五月の昭憲皇太后ご大喪当日、日本赤十字社の救護車として使用された「モデルT型」。

往きて還らぬ

PPS
▲9月29日　R・ディーゼル(55)
独の技術者で、1897年ディーゼルエンジンを発明。その後多くの研究者により機関車、船舶などに利用される。

▲9月4日　田中正造(71)
明治期の政治家。足尾鉱毒事件では被害者農民とともに闘った。明治23年衆議院議員。34年鉱毒問題を天皇に直訴。

▲10月10日　桂太郎(65)
明治から大正期の軍人、政治家。台湾総督、陸相などを歴任し、明治34年組閣、日露戦争を遂行。以後、2度組閣。

▲11月22日　徳川慶喜(76)
江戸幕府15代将軍。慶応3年大政を奉還。翌4年、旧幕府軍が鳥羽・伏見の戦いで敗れ、江戸開城後、静岡で謹慎。

▲7月31日　3代目竹本大隅太夫(59)
明治から大正期に活躍した義太夫語りで、明治17年3代目襲名。芸熱心で知られ、「壺坂霊験記」で大当たりをとった。

毎日新聞社
▲8月31日　E・ベルツ(64)
独の医学者で、1876年来日。東京医学校（東大医学部）で生理学、内科学を講じ、近代日本医学の基盤を作った。

▲9月2日　岡倉天心(50)
明治期の美術界のリーダー。明治23年東京美術学校校長に就任。31年日本美術院創設。ボストン美術館にも勤務。

▲5月26日　坪井正五郎(50)
明治期の代表的な人類学者、考古学者。元帝大理科大学教授。日本先住民“コロボックル”説を提唱。ロシアで客死。

▲7月5日　有栖川宮威仁(51)
明治期の皇族、軍人。有栖川宮幟仁親王の子。海軍兵学寮に入学。日清戦争では艦長、後に大将。死に際し元帥。

▲7月30日　伊藤左千夫(48)
明治期の歌人、小説家。歌誌「アララギ」で活躍し、島木赤彦、斎藤茂吉を育てた。小説に「野菊の墓」がある。

▲2月14日　川端玉章(70)
日本画家。明治画壇の大御所。元東京美術学校教授。明治42年川端画学校創設、平福百穂など多くの後進を育成。

▲3月31日　J・P・モルガン(75)
米の金融資本家。1895年、J・P・モルガン商会設立。莫大な金融資本を背景に政府や産業界に強大な支配力を得た。

▲4月14日　K・ハーゲンベック(68)
独の動物園経営者。1907年、ハンブルクに世界初のハーゲンベック自然動物園を創設。サーカス団も所有。

ミニ事典
1913年のキーワード

「玉座を以って胸壁となし」
第一次憲政擁護運動の先頭に立つ尾崎行雄が、「閥族」桂太郎首相らを批判して言った言葉。二月五日、成立したばかりの桂内閣に、衆議院で弾劾決議案を提出、その説明に使われ、激しい野次と大拍手をあびた。「彼らは玉座を以って胸壁となし、詔勅を以って弾丸に代えて政敵を倒さんとするものではないか」というもので、天皇の権威を借りてすべてを正当化するやりくちを非難した。

日本結核予防協会
「亡国の病」と言われた結核の撲滅を目標とした組織。二月一一日、北里柴三郎を理事長として設立。設立趣旨に「結核の蔓延は殖産興業上、また日本民族の発展上、寸時もゆるがせにできない」とあり、日本経済発展の中核を担う、繊維産業の女性工員たちに結核罹患率が特に高く、その克服が緊急課題になっていることを示している。昭和一四年、財団法人結核予防会に継承された。

軽便鉄道
線路の幅（軌間）が狭く、小型の機関車・車両を走らせるための鉄道。官鉄の軌間が一〇六七ミリだったため、これ以下の一〇〇〇、九一四ミリなどの軌間の鉄道を言った。明治四三年の軽便鉄道法公布で、免許手続き・経営規定が簡略化され、また、少ない資金で短期間に敷設できることから、島原電鉄、東信電鉄など各地でさかんに建設された。二月二二日には業界団体・軽便鉄道協会が設立され、敷設はピークを迎えた。

那覇市史資料室提供

▲沖縄の軽便鉄道。那覇と嘉手納を結ぶ9.28キロが、大正3年11月に開通した。

帝国飛行協会
民間飛行家の保護・育成をはかり、航空術を奨励するための民間の航空団体。前年に設立された日本航空協会と、設立準備中だった帝国飛行協会が、当局の保護・便宜を一本化するため合併、四月二三日、再出発した。会員数約一六〇人。飛行界の進歩・発展をめざす操縦者の育成、練習機の購入、競技会の開催、懸賞飛行などのイベントを企画、実施した。

反良妻賢母論
平塚らいてうは、「婦人は過去を根底から疑え」と「新しい女」の立場から主張。結婚は男に服従するもの、良妻賢母はあわれむべきもの、とした。これに対し「露骨にして公然、古来の道徳破壊を唱え、男子に対する従順を非難するなど、遺憾千万」と、四月二六日、内務省は平塚論文掲載の「青鞜」などを槍玉にあげ発禁処分。以降、同様の主張はことごとく、危険思想であり、風俗紊乱のおそれもあると処分された。

東亜気象台長会議
日本、朝鮮、台湾、中国沿岸地方など、東シナ海を囲む気象台で、共通の暴風雨標識の制定や、気象通報体制の整備のため、五月一二〜一七日まで開かれた会議。上海、香港、青島の各気象台長、朝鮮各測候台長らが出席、日本で開かれた気象関係の最初の国際会議となった。従来、航海者は標識が各国ごとに異なったため知るべき信号が多く、出帆時期を失うなどの不利益をこうむっていた。翌年七月、共通標識が実施された。

日本蓄音器争議
鈴木文治らが結成した労働組合・友愛会の最初の支部、川崎支部が日本蓄音器商会に対して起こした争議。川崎支部は六月、東京電気と日本蓄音器商会の労働者二百余人で結成された。争議は六月二八日、工場側が業績不振を理由に七、八月の休業を通告したことから起こり、七月一日、鈴木が全権を担って会社側と交渉、休業中の生活保障、休業日数の削減など労働者に有利な条件を獲得。友愛会は初めての争議を成功させた。

新東髪「七・三分け」
この年の六月頃から流行した女性のヘア・スタイル。前髪を七・三に分け、七分を寝かして右に流し、後ろ髪を結いあげた。「廂髪」や「二百三高地」といった、前髪を平均して結いあげるスタイルの延長上にあったが、格段に軽やかで、涼しげ、目新しさが受けた。断髪やパーマネントが出現する前の、「新しい女」の時代にふさわしい髪型だった。

「イリュストラシオン」

▲6月30日、ギリシャ軍は侵攻したブルガリア軍に反攻。8月、停戦した。

第二次バルカン戦争
オスマン・トルコの衰退で力を得たバルカン諸民族が独立、それぞれの利益を主張して対立し、英・仏・露の三国協商と、独・オーストリア・伊の三国同盟がそれにからんだために生じた国際問題。六月二九日には、第一次バルカン戦争でトルコを共通の敵としたバルカン同盟諸国が分裂、第二次バルカン戦争を起こした。翌年にはセルビアのオーストリアへの敵意が、サラエボ事件となって第一次世界大戦を引き起こした。

台湾独立事件
中国革命同盟会員だった羅福星らが指導した、台湾独立のための抗日蜂起計画。一〇月一一日、台湾総督府が事前に察知、一二月までに三三九人が起訴され、二八五人が懲役刑、二〇人が死刑という未曾有の弾圧事件に発展した。台湾では明治二八年の日本の植民地支配開始以来、抗日運動が絶えず、三五年にようやく治安を確立したが、この頃、辛亥革命の影響と、総督府の武断的な政策に、再び抗日事件が頻発していた。

渦巻きブーム
大阪を中心に大流行し、「大阪朝日新聞」が一一月二〇日付で「何でも彼でも渦巻き」と報じた。五月四日に京都で墜落死した、飛行士・武石浩玻を主人公にした新聞小説「渦巻」の圧倒的人気がきっかけ。京都座など京阪神の劇場が競って上演し、活動写真各社も俳優を総動員して追随。ついには、呉服の模様から日用雑貨・菓子にいたるまで「渦巻き」が席巻、空前のブームとなった。

▲渦巻きブームの主人公になった武石浩玻（30）。操縦は米国で学んだ。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1913

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利・渡邉裕）
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エーピーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ　飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘　結城順一　吉田忠正

●写真協力
井川斗司子　石井瑛子　楠田守　但馬一憲　田中純一郎　平山亮　山口隆司　「イリュストラシオン」　岩波書店　CORBIS BETTMANN　西日本新聞社　PPS　平凡社　Popperfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　伊藤法律特許事務所　宝塚歌劇団　横河建築設計事務所　池田文庫　大宅壮一文庫　お札と切手の博物館　国立国会図書館　三康図書館　宝塚市立図書館　東京芸術大学　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　那覇市　日仏会館図書室　日本近代文学館　日本美術家連盟　野口英世記念会　浜松市楽器博物館　三浦市　水島衣裳雑貨博物館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第74号　8月4日（火）発売　毎週火曜日発売　講談社　定価560円　本体533円

1914［大正3年］

●特集
コンセプトは〝皇都〟のイメージ作り「東洋一の大停車場」東京駅、開業！／初のエスカレーターに美人コンパニオン「東京大正博覧会」に入場者七五〇万人！／「読売新聞」に画期的企画登場！〝新しい女〟の「身の上相談」事情／サラエボに轟いた暗殺者の銃声！三二カ国を巻きこむ第一次世界大戦勃発

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…海軍汚職「シーメンス事件」発覚（1月23日）／山本権兵衛内閣総辞職（3月23日）／昭憲皇太后大葬（5月24日）／初の民間飛行競技大会（6月13日）／日本が対独宣戦布告。第一次大戦参戦（8月23日）／三越呉服店、新館開店（10月1日）／日本軍、青島占領（11月7日）

●人物クローズアップ
早川雪洲、ハリウッドの〝寵児〟に

●決定的瞬間
パナマ運河三四年目に開通！

●美の出会い
官展に対抗して第一回「二科展」開催

●女たちの肖像…松井須磨子の「復活」大ヒット／勝者・敗者…早慶明の三大学野球リーグ／証言・あの日この日…平塚らいてう、徳富蘇峰／「現場」を歩く…桜島〝大正爆発〟／20世紀博物館…深川江戸資料館（東京）／外から見たNIPPON…エリセーエフの〝身近な〟日露比較

●ベストセラー…「少年倶楽部」創刊／スターと名場面…「アントニーとクレオパトラ」／モノ語り'14…「蝶印ハーモニカ」

週刊YEAR BOOK
日録20世紀
1913
●野口英世の栄光と錯誤
8月11日号
第2巻第30号 通巻73号
平成10年8月11日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
発売所
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1295 （販売）03-5395-3604
定価560円
本体533円

雑誌 23712-8/11 T1123712080562
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社